南陽市文化財調査報告書第四集

# 南陽市字限図調査報告書（4）

## ― 中川 ―

2024年3月

南陽市教育委員会

南陽市字限図調査報告書（4）

南陽市教育委員会

# 南陽市字限図調査報告書（４）

## ― 中川 ―

令和６年３月

南陽市教育委員会

# 凡　　例

1　本報告書は、埋蔵文化財分布調査基礎調査として平成 25 年度から実施してきた南陽市内の地名と字限図調査のうち、中川分をまとめた南陽市字限図調査報告書である。

2　調査は、南陽市教育委員会が実施した。

3　事務局体制は次のとおりである。

主 管 課　スポーツ文化課（平成 25、26 年度）
　　社会教育課（平成 27 年度～）
事 務 局　スポーツ文化課長　江口和浩（平成 25、26 年度）
　　社会教育課長　田中吉弘（平成 27 年度）
　　〃　　佐藤賢一（平成 28 ～ 30 年度）、
　　〃　　板垣幸広（令和元～ 2 年度）
　　〃　　山口広昭（令和 3 ～）
　　社会教育課長補佐　角田朋行（平成 25 年度～）
　　社会教育課嘱託・会計年度任用職員　斉藤紘輝（令和元年～）

4　本報告書の執筆、編集は角田朋行が行った。

5　字限図のデジタル化は、これまで主に下記の分担により行った。

角田朋行：赤湯、金沢、長岡、椚塚、俎柳、松沢、三間通、上野、二色根、大橋、郡山、島貫、中ノ目、中落合、西落合、萩生田、若狭郷屋、鍋田、長瀞、蒲生田、高梨、関根、露橋、沖田、坂井、法師柳、宮崎、宮内、金山 、梨郷、和田、竹原、砂塚、羽付 、池黒、漆山、川樋、小岩沢、元中山、小滝、荻、下荻、太郎

斉藤紘輝：漆山、川樋、小岩沢、小滝、荻、下荻

6　土地利用図の地目毎の塗り分けは下記によった。

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 道 | | 墳墓地 |
| | 水路・川・湖沼 | | 畑 |
| | 橋 | | 水田 |
| | 宅地 | | 草地・原野・茅場・荒地・堤塘 |
| | 寺・神社 | | 林 |

7　小字名の漢字は、明治期の字限図の記載によった。

# 目　次


第１章　調査の概要 …… 1
　1　調査の経緯等 …… 1
　2　字限図について …… 1
　3　調査範囲 …… 1
　4　作図 …… 1
　（1）字限図のデジタル化と土地利用図の作成 …… 1
　（2）土地利用図等を作成する際の修正について …… 3
　5　字限図及び土地利用図の活用法 …… 3
第２章　土地利用図調査（地区別調査） …… 4
　1　中川地区 …… 4
　（1）中川地区の概要と特色 …… 4
　（2）村名の変遷と二つの中山 …… 6
　（3）中川地区の集落・屋敷・館等 …… 8
　（4）明治期の土地利用図（中川） …… 14
　　①川樋（新田含む） …… 14
　　②小岩沢 …… 16
　　③元中山 …… 18
　　④釜渡戸 …… 20
第３章　南陽市中川、上山市中山の小字名及び地名 …… 22
　1　中川（1）川樋（新田含む）の小字名・地名 …… 23
　　（2）小岩沢の小字名・地名 …… 26
　　（3）元中山の小字名・地名 …… 27
　　（4）釜渡戸の小字名・地名 …… 28
　　（4）その他の地名等 …… 29
　2　中山（上山市分）の小字名・地名 …… 30

# 表　目　次

表　1　字限図の保管場所 …… 2
表　2　中川地区の村の変遷 …… 7
表　3　中川の城館遺跡 …… 9
表　4　小字名・地名の出典 …… 20

# 挿図目次

第　1図　**南陽市内の地区境** …… 1
第　2図　デジタル図化方法 …… 2
第　3図　中川地区の土地利用図（釜渡戸地区、山間部除く） …… 5
第　4図　中川の屋敷や館跡１ …… 10
第　5図　中川の屋敷や館跡２ …… 11
第　6図　岩部山周辺の館跡（赤色立体図） …… 12
第　7図　岩部山館跡、虚空蔵山館跡（赤色立体図） …… 13
第　8図　**土地利用図　川樋（新田）** …… 14
第　9図　川樋（新田）の小字名 …… 15
第 10 図　**土地利用図　小岩沢** …… 16
第 11 図　小岩沢の小字名 …… 17
第 12 図　土地利用図　元中山 …… 18
第 13 図　元中山の小字名 …… 19
第 14 図　釜渡戸の小字名 …… 21

# 第１章　調査の概要

## １．調査の経緯等

市教育委員会では、平成三～五年度に市内遺跡分布調査の基礎となる内部資料を作成するため市内平野部の字限図調査を実施した（角田 1993）。各地区の小字の字限図から字寄図を作成し、それを基本図として土地利用図、旧地形推定図、館跡や条里制等の分布参考図等を作成し、分布調査等の諸調査に活用してきたが、平成二十五年度から新たにこの字限図調査のデジタル化に取り組んだ。

今次調査では字限図をデジタル化したうえで土地利用図を作成し、小字名・地名を採録した。本報告書では中川地区分（山地及び平地の明治期字限図が無い釜渡戸地区の土地利用図を除く）について報告する。

第１図　南陽市内の地区境

## ２．字限図について

表題は、明治七年調製のものは地租御改正精絵図、明治八年調製のものは国、郡、村名に続いて字限図、全地字限絵図、字限全地絵図、全地絵図、精絵図、明治二十五年及び二十六年調製のものは単に地図、字切図となっている。本報告書では字限図の呼称を用いる。南陽市内の明治時代の字限図は、市教育委員会、市税務課、各地区に保管されている。字限図の保管場所は表１のとおりである。今次調査では、主として明治七年（1874）、八年（1875）、二十六年（1893）の字限図を主に使用した。中川地区の字限図（旧図）には作成年の記載が無いものがあるが作図法等により明治二十六年を下らないと思われる。

## ３．調査範囲

土地利用図作成による調査範囲は、南陽市域のうち山間部を除いた範囲とし、今回は中川地区の川樋盆地・中山盆地を対象とした。

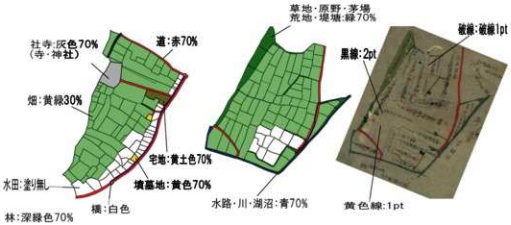
## ４．作図

### （１）字限図のデジタル化と土地利用図の作成

スキャナーで読み込んだ字限図を１葉ごとデジタルトレースし、作成した小字単位の土地利用図を張り合わせ、地区毎の土地利用図を作成した。

土地利用図を作成するために、小字の輪郭をデジタルトレースし、地目毎に次のような配色で色分けを行った。なお、地目変更がある場合及び畦線等の変更・追加があった場合は古い方を優先とした。ソフトは Inkscape を使用した。

水田は白抜き、畑は黄緑色、草地・原野・萱場・芦場・高岸・砂地は緑色、水路・湖沼・溜池・川は青色、道路は赤色、宅地・公共用地は茶色、墓地は黄色、神社・寺は灰色、山林は濃緑色、温泉は紫色に塗り分け、土地利用図を作成した。




〈区割りレイヤーに記載〉
区割り線
道、水路（湖沼）
草地・原野で水路沿いのものや雨季水路

〈土地利用図レイヤーに記載〉
畑・宅地
草地・原野・茅場等で面積のあるもの
社寺
墳墓地

第２図　デジタル図化方法

| | 地区 | デジタル化数 | 明治７年 | 明治８年 | 明治22年 | 明治25年 | 明治26年 | 明治27年 | 明治31年 | 年不明・昭和 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 赤湯 | 赤湯 | 118 | | ○ | | | ○ | | ○ | |
| | 金沢 | 36 | | ○ | | | ○ | | | |
| | 長岡 | 31 | | | | | ○ | | | |
| | 鈍塚 | 80 | | | | | ○ | | ○ | |
| | 畑柳 | 32 | | | | | ○ | | | |
| | 松沢 | 32 | | ○ | | ○ | | | | |
| | 三間通 | 59 | | 地 | | | | | | |
| | 上野 | 19 | | | | | | | | □ |
| | 二色根 | 32 | | | | | 地 | | | |
| | 大橋 | 43 | | | | | □ | | | |
| 沖郷 | 郡山 | 39 | | ○ | | | □ | | | |
| | 島貫 | 17 | | ○ | | | □ | | | |
| | 中ノ目 | 55 | | | | | □ | | | |
| | 中落合 | 29 | | ○ | | | □ | | | |
| | 西落合 | 16 | | ○ | | | □ | | | |
| | 萩生田 | 40 | | ○ | | | □ | | | |
| | 若狭郷屋 | 24 | | ○ | | | □ | | | |
| | 鎬田 | 81 | | ○ | | | □ | | | |
| | 長渕 | 14 | | ○ | | | □ | | | |
| | 蒲生田 | 54 | | | | | □ | | | |
| | 高梨 | 48 | | ○ | | | □ | | | |
| | 間根 | 42 | | ○ | | | □ | | | |
| | 貫橋 | 40 | | | | | | □ | | |
| | 沖田 | 16 | | ○ | | | □ | | | |
| | 坂井 | 17 | | ○ | | | □ | | | |
| | 法師柳 | 25 | | ○ | | | □ | | | |
| | 宮崎 | 127 | | ○ | | | ○・□ | | | |
| 宮内 | 宮内 | 201 | | | | | ○ | | | |
| 金山 | 金山 | 150 | | ○ | | ○ | | | | |
| 梨郷 | 梨郷 | 90 | | ○ | | | □ | | | |
| | 和田 | 45 | | | | | ○・□ | | | |
| | 竹原 | 49 | | ○ | | | □ | | | |
| | 砂塚 | 88 | | | | | □ | | | |
| 漆山 | 羽付 | 32 | | | | | ○ | | | |
| | 漆山 | 81 | | ○ | | ○ | ○ | | | |
| | 池黒 | 67 | ○ | | | | | | | |
| 吉野 | 萩 | 63 | | ○ | | | □ | | | |
| | 下荻 | 34 | | ○ | | | □ | | | |
| | 小滝 | 140 | | | | | □ | | | |
| | 太郎 | 84 | | | | | □ | | | |
| 中川 | 川樋 | 31 | | | | | | | | □ |
| | 新田 | | | | | | | | | □ |
| | 小岩沢 | 16 | | | | | | | | □ |
| | 元中山 | 16 | | | □ | | | | | |
| | 日影 | 5 | | | □ | | | | | |
| | 釜渡戸 | | | | □（山地のみ） | | | | | |
| ※全ての小字が揃っていないものを含む。 | | | | | | | | | | |
| ○：市史編さん室、地：地区保管、□：税務課保管 | | | | | | | | | | |

表１　字限図の保管場所

### （2） 土地利用図等を作成する際の修正について

個々の字限図は、歪みや計測時の不正確さがあり、隣同士であっても境界の形状が合わないことは珍しくない。地区毎の土地利用図の作成にあたって、その修正については概ね次の方法によった。また、作成した小字単位のデータとそれを集合させた地区毎の土地利用図は別に管理し境界線の修正状況を追認できるように図った。

・地形図に重ね合わせて正誤が判断できる個所は地形図に沿って修正する。
・周辺の図との整合性から、明らかに変形している図のみを修正する。
・どうしても齟齬を生じる境界については、相互の境界線を近づけるように互いの境界線を変形させて擦り合わせる。

なお、中世城館等の埋没遺構等、詳細な検討を要する範囲については、ベースとなる地形図の上に小字単位の土地利用図を重ね、必要に応じて昭和二十年代等の空撮写真とも照合した。

## 5．字限図及び土地利用図の活用法

明治期の字限図を元に作成した土地利用図では、重機による大規模な開発が行われる以前の微高地や旧河道といった自然地形、溝跡のような人為的地形が判読可能である。明治時代まで使用されていた廃道や古い水路の位置も発掘調査前に把握できる。

小字名・地名からは、古墓地、寺跡、神社跡、古墳等が推測される場合や、小字名・地名が土地の成因や環境を示していることも多い。地名については、古語（やまと言葉）による経験則的な地名研究やアイヌ語地名の研究の例も知られており、字名一覧の備考欄には参考としてカナで記載した。また、方位や位置を示す「東西南北」、「前後」、「裏」が付く地名からは、どの方向から人々がその土地を見ていたか推測できる。

土地利用図では、地目（土地利用法）及び地割から得られる情報がある。

地目からは、土地の高低が推測できる。一般に水田は低地である。宅地や畑地は微高地である場合が多い。草地は営農に適さない土地であることが多く、河川沿いの低湿地帯や斜面、崖、水路の肩、塚等に見られる。水田（畑地）の中にぽつりと畑地（草地）が残る場合は古墳、塚、古墓地の可能性がある。このような場合で当該地目内で交点を持つ地境が見られる場合は高塚の可能性がある。

地割からは、館跡、道路跡、水路跡、旧河道、条里水田跡、河川氾濫跡等を読み取ることができる。河川氾濫跡では新旧の切り合い関係を見ることもできる。館跡ではしばしば周囲に堀跡が水田化した地割を見ることができる。最上川等の河川沿いでは開墾に伴う長割りの地割が見られ、その長軸方向は排水方向に一致する傾向がある。湿地性の水田では、堅田に比べ一区画が小さく密になる傾向がある。

なお、土地利用図は明治初期の状況を示すものである。地名や地割りが年代的にどこまで遡り得るのか、地割りの性格や成因には、発掘調査や文献等の様々な手法による検証が必要である。また、正確性に欠く古い字限図を基にしていることから、今次作成の土地利用図及び字名図が現在の地図や地籍図と合わないことは多々あり、何らかの公的な基準としては使えないため注意を要する。また、地名の由来等、推測や伝承の域を出ないものも多いが一概に切り捨てず記載する方針とした。

## 第２章　土地利用図調査（地区別調査）

### １．中川地区

#### （１）中川地区の概要と特色（第２図）

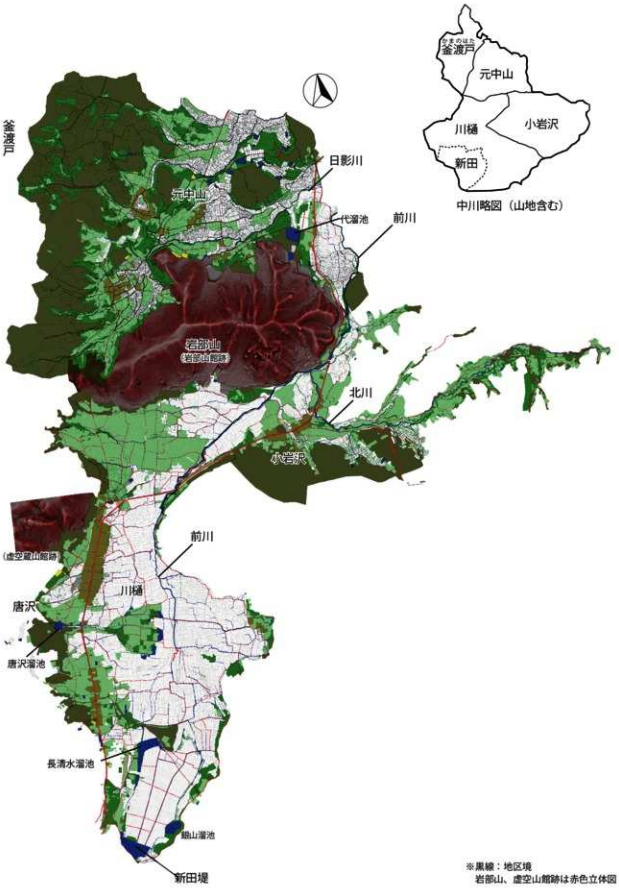
中川地区は、岩部山を境とする川樋盆地と中山盆地の二つの小盆地と釜渡戸の山間地からなる。川樋盆地は南北長約４㎞、盆地の南端（新田地区）～東辺（大洞地区）にかけて南北約 2.2㎞、東西約 1.1㎞の泥炭湿地帯（川樋湿地）が広がり、東北地方のウルム氷期以降の植生変遷の基準に位置づけられている。地表下約５ｍで AT 火山灰を検出し地表下 8.4 ｍでは約 4.6 万年前の測定結果が出ている（仙台市 1994）。川樋盆地には他から流れ込む大きな河川が無いため、その堆積速度は国内の低地泥炭層で最も遅い部類に含まれる。中山盆地は岩部山の北側に広がる南北約 3.6㎞の小盆地である。

川樋盆地と中山盆地を北流するのが前川である。沢水や湧水を源に盆地南端に位置する新田堤や周辺の湿地帯から水を集める。自然堤防を発達させるほどの水量はないが湿地帯を流れるため大雨時にはしばしば湛水する。最も大きな谷川は川樋では唐沢、小岩沢では北川、元中山では日影川で、その他にも山間から多くの小川が盆地に流れ込む。これらは常の水量はそう多くないが大雨時に谷から一気に水が流れ込むことがある。特に堤が造られる以前の唐沢では江戸時代に大雨で土石流が発生し、多くの家屋倒壊や人的被害をもたらした。土地利用図でも水田内に三角に広がる扇状の地形が見られる。唐沢の氾濫域や土石流が通過した付近では街道沿いの家屋連担が途切れており災害の大きさや被災後の危険意識の高さを物語っている。

川樋地区の集落は、主に川樋湿地を見下ろす盆地西側の崖錐地を通る米沢街道沿いに立地し、かつては宿駅として栄えた。小岩沢地区の集落も南澤山北側を通る米沢街道沿いに立地している。元中山地区の各集落は、日影道（日影街道）、釜渡戸道（釜渡戸藪道）、諏訪原道、米沢街道等の道に沿った立地が見られる。

中川地区は市内有数の鉱山地帯で関連地名も多く残る。また石材の産地でもあり、中川石と呼ばれる凝灰岩が採掘された。吉田橋や小巌橋（蛇ケ橋）を始め今でも地区内にはこの石材を用いた石塀や石垣等が見られ地域の景観的な特色にもなっている。釜渡戸地区からは釜渡戸石と呼ばれる花崗岩が採掘され旧県庁の建築材として用いられた。炭の生産も盛んであったとみえ、赤色立体図では 120 基余の窯跡が確認できる。

地区名の中川は、明治二十二年に中山と川樋の頭文字をとって村名としたことに由来する（角川日本地名大辞典編纂委員会 1981）。旧村名は、川樋盆地では南から川樋新田村、川樋村、小岩沢村。中山盆地では元中山村、中山村である。地区は川樋盆地では新田・川樋（北山、大洞）・小岩沢、中山盆地では元中山（日影、諏訪原、代、金神林）・中山（森合、和江山、明神町、鞠町）である（長井 1968）。このうち「中山」は国境を意味する地名と言われ、最上領と伊達（上杉）領の境であり城館跡も多い。岩部山の南に位置する加藤屋敷遺跡（字加藤屋敷・岩屋堂）の発掘調査（氏家・伊藤 2009）では、弓等の武器や祭祀用具、硯や墨書土器等が出土し８世紀末～９世紀後半の集落が確認されている。字北澤の北に接して郡石（郡石山）という字名が残るなど、置賜と最上の中継地点として駅家（うまや）に類するような何らかの遺跡が存在する可能性もあろうか。




第３図　中川地区の土地利用図（釜渡戸地区、山間部除く）

### （2）村名の変遷と二つの中山（表２）

最も古い記録として中川地区の地名が現れるのは、天文七年（1538）御段銭古帳写の「中山」である。続いて天文二十二年（1553）晴宗公采地下賜録（以下「下賜録」と言う）に「やしろ中山」と「かけいり中山」、性山公治家記録の天正二年（1574）に「川樋」の地名が出てくる。このうち、中山（南陽市元中山及び上山市中山）については、下賜録に見るように当初から二つの中山が存在し、村名や所属が頻繁に変わるなど煩雑であるため中川の地区名について下記及び表２にその変遷を記す。

下賜録では「やしろ（屋代）中山のうち、一たいの在け、一うきめん（浮免）三千かり、一ひかけ在け」という記述が見られる。「やしろ中山」という地域があり、その中に「たいの在家（代の在家）」と「ひかけ在家（日影在家）」が存在することがわかる。この「代」と「日影」は現在の南陽市元中山にある地名であり、「やしろ（屋代）」は現在の高畠町で当時の伊達氏の拠点の一つ高畑城があった。この史料から伊達晴宗の時代には、現在の南陽市元中山が「屋代中山」と呼ばれていたことが分かる。さらに同史料には「かけいり（掛入）中山」の地名が出てくる。掛入は、現在の上山市中山にある巨岩の掛入石に由来すると思われ「かけいり中山」は現在の上山市中山で当時は「掛入中山」と呼ばれていたと考えられる。

また屋代中山の「代の在家、日影在家」は赤湯を拠点とする粟野氏、「五軒在家」は高畠の小梁川氏、掛入中山の「館の在家、うちかた在家」は宮内を拠点とする大津一族の所領という違いもあった。

この地名の違いは、その後も引き継がれたと見られ、「かけいり中山」「掛入石中山」は米沢藩時代の史料にも度々現れる。一方で邑鏡や村目録のように村々が列記される際の村名は「中山」となっており、中山の内にあって掛入中山は「掛入（欠入）」や「掛入石」を冠して違いを明確にする必要があった地域と思われる。

明治二年に米沢藩の４万石の振替上地で「小岩沢村、川樋村、中山村」が酒田民政局に属することになった。天文二十二年に「屋代中山」と称された村々が再び屋代にあった酒田民生局高畠出張所の管轄になったのである。東置賜郡史ではこれに関連して「中山村を分離して中山村・元中山村の２村とした」と記してあるが、今回調査した史料の範囲では明治二年段階で元中山村の村名は確認できないので、これは郡史が書かれた時点での元中山村という意味であり、米沢藩掛入石中山と酒田民生局中山に分かれたことを指すのであろう。

明治三年以降、小岩沢村、川樋村、川樋新田村、中山村（現在の元中山）は山形県に属し「掛入石中山」は米沢藩、米沢県を経て置賜県に属している。明治九年に山形県に置賜県と鶴岡県が合併した際には、三小区に属していたのは中山・小岩沢・川樋、川樋新田であり、六小区に属していたのは中山・松沢・金沢・赤湯…（略）となっており、ここでも２つの中山が存在していたことがわかる。明治初年～明治二十二年市町村ノ沿革（県史近現代史料１）では、「明治十九年三月五日一ツノ中山村ヲ元中山ト改ム」とあり、「一つの」と冠していることから、２つの中山村の一方を元中山村に改名したことが伺え、これ以降に南陽市側の中山を元中山と呼ぶことが定着したものと思われる。

| 年 | | 出来事及び出典 | 上山市 | 南陽市 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 中山 | 元中山 | 小岩沢 | 川樋 | 新田 |
| 天文７年 | 1538 | **御段銭古帳写** | 中山 | | | | |
| 天文 22 年 | 1553 | 晴宗公采地下賜録 | かけいり（掛入）中山 | やしろ（屋代）中山 | | | |
| | | | たて（館）の在家、うちかた在家 | たい（代）の在家、ひかけ（日影）在家、ちけん（五軒）在家 | | | |
| 天正２年 | 1574 | 伊達輝宗日記 | | | | 川とい | |
| | | 最上義光の兵が川樋侵攻、防戦（治家記録） | | | | 置賜郡北条荘川樋 | |
| 天正 13 年 | 1585 | 北条段銭帳 | | | | 北条かハとひ、大ほら | |
| 文禄３年 | 1594 | 高目録帳 | 中山、日影 | | 小湯澤 | 河とい | |
| 慶長年間 | 1596～1614 | 邑鑑 | 中山村 | | 小立沢村 | 河樋村 | |
| 寛永 15 年 | 1638 | 懸入石中山之在釜渡戸高帳 | 掛入石中山<br>釜渡戸 | | | | |
| 寛永年間 | 1624～1643 | 寛永年間に川樋村から分村（角川日本地名辞典） | | | | | 新田 |
| 元禄４～元文４年 | 1691～1739 | 山林台帳御林方勤 | 掛入石中山<br>釜ノ渡戸 | | 小岩沢 | 川樋 | |
| 享保２年 | 1717 | 掛入石中山一村（絵地図） | 掛入石中山 | | | | |
| 享保 14 年 | 1729 | 入頭暇出（赤湯町史） | 欠入中山村、掛入中山村 | | | | |
| 明治２年６月 | 1869 | 掛入石中山は米沢藩に属す。中山（現在の南陽市元中山）は酒田民政局（高畠出張所管轄）に属す。 | 掛入石中山（米沢藩） | 中山（酒田民政局） | 小岩沢（酒田民政局） | 川樋（酒田民政局） | 川樋新田（酒田民政局） |
| 明治２年７月 20 日 | 1869 | 酒田民政局が酒田県になる。 | 掛入石中山（米沢藩） | 中山（酒田県） | 小岩沢（酒田県） | 川樋（酒田県） | 川樋新田（酒田県） |
| 明治３年９月 | 1870 | 酒田県が山形県に属す。 | 掛入石中山（米沢藩） | 中山（山形県） | 小岩沢（山形県） | 川樋（山形県） | 川樋新田（山形県） |
| 明治４年７月 14 日 | 1871 | 廃藩置県。米沢県となる。 | 掛入石中山（米沢県） | | | | |
| 明治４年８月２日 | | 戸籍法区 | 掛入石中山（米沢県 18 区） | 中山村（山形県第５区） | 小岩沢村（山形県第５区） | 川樋村（山形県第５区） | 川樋新田村（山形県第５区） |
| 明治４年11 月２日 | | 米沢県を置賜県に改める。 | 掛入石中山（置賜県） | | | | |
| 明治５年 10 月 | 1872 | 第１次大小区制 | 第 18 区掛入石中山 | 中山村（山形県第６大区小５区） | 小岩沢村（山形県第６大区小５区） | 川樋村（山形県第６大区小５区） | 川樋新田村（山形県第６大区小５区） |
| 明治６年 | 1873 | 大区小区制 | 元中山村（第九大区六小区） | 中山村（第九大区三小区） | 小岩沢村（第九大区三小区） | 川樋村（第九大区　三小区） | |
| 明治９年８月 28 日 | 1876 | 山形県に置賜県と鶴岡県を合併 | 中山（山形県第九大区六小区） | | | | |
| 明治 10 年 | 1877 | 大小区制 | 中山村（駅）（第九大区六小区） | 中山村（第九大区三小区） | 小岩沢村（第九大区三小区） | 川樋村（駅）（第九大区三小区） | 川樋新田村（第九大区三小区） |
| 明治 11 年７月 | 1878 | 大区・小区制をやめ、行政区画として郡町村が復活 | 中山村（駅） | 中山村 | 小岩沢村 | 川樋村 | 川樋新田村 |
| 明治 12 年８月 | 1879 | 川樋村と新田村が合併 | 中山村（駅） | 中山村 | | 川樋村 | |
| 明治 17 年７月 | 1884 | 組合村 | 中山村 | 中山村 | | 川樋村 | |
| 明治 19 年３月 | 1886 | 一ツノ中山村ヲ元中山村ト改ム | 中山村 | 元中山村 | | | |
| 明治 20 年 | 1887 | 組合村 | 中山村（山形県第十五区） | 元中山村（山形県第十五区） | 小岩沢村（山形県第十五区） | 川樋村（山形県第十五区） | |
| 明治 22 年４月 | 1889 | 町村制施行により川樋、中山、小岩沢、元中山の各村を合併して中川村となる。 | 中川村中山 | 中川村元中山 | 中川村小岩沢 | 中川村川樋 | |
| 昭和 30 年 | 1955 | 町村合併で赤湯町になる。 | 赤湯町中山 | 赤湯町元中山 | 赤湯町小岩沢 | 赤湯町川樋 | |
| 昭和 32 年 | 1957 | 分町し、中山は釜渡戸を除いて上山市に編入 | 上山市中山 | 赤湯町釜渡戸 | | | |
| 昭和 42 年 | 1967 | 町村合併で赤湯町が南陽市となる。 | | 南陽市釜渡戸 | 南陽市元中山 | 南陽市小岩沢 | 南陽市川樋 |

**表２　中川地区の村の変遷**

**（3）中川地区の集落・屋敷・館等**（第4～7図）

中川地区は最上領と伊達（上杉）領の境にあたり、多くの城館が築かれている（表3）。その多くは山地に立地し、緩斜面地や平野部に立地する城館跡としては中野森館、館平館跡、川樋館跡が知られている。上山市に編入された中山地区にある中山城跡は当地域の中心的な城として知られるが、近年の城郭研究から岩部山館跡が伊達時代の中山要害ではなかったかという説も提唱されている（保角 2019）。

**①館平館跡**は、川樋字館平・字館に位置する。別名平井城と伝わる。唐沢堤の南に広がり、現在は果樹園等になっている。主に字館平に遺構が残り、字館では広いテラスが何段か見られるが農地化が進み遺構は不明瞭である。

**②川樋館跡**は、川樋字寺裏に位置し館の西辺は唐沢の谷川である。館平館跡の北に接し館平館跡と一体の館である可能性もあろうか。

**③中野森館跡**は、新田字中ノ森に位置し、川樋湿地の中に浮かぶ弧丘（通称：野中森）上に築かれている。丘は平面形が三角形で丘の西側には長堤（長清水溜池）がある。

**④川樋字根小屋**は、虚空蔵山館の山麓に位置する。山麓の東向きの緩斜面地に数段のテラスが見られ虚空蔵山館跡の根小屋があったと推定されている。

**⑤川樋集落**は、虚空蔵山館跡の東を通る米沢街道沿いの街村で、近世には川樋宿や川樋問屋等が置かれていた。④の根小屋集落が街道の発展に伴って道沿いに移ったものか。

**⑥新田集落**は、川樋湿地に面し米沢街道沿いに家屋が並ぶ路村である。

**⑦小岩沢集落**は、前山の北山麓に位置し、米沢街道沿いの街村で近世には宿駅であった。

**⑧花窪集落**は、諏訪原から釜渡戸へ至る釜渡戸道（県道原中川停車場線）沿いにあたり、諏訪原4からの比高は25m以上である。中央の水田を囲むように周囲に屋敷が並ぶ。

**⑨諏訪原4**の集落は、北の長坂道へ続く古い米沢街道沿いに立地する。集落北側では東流する谷川が見られ、南側では日影川による幅の広い谷地形が見られる。

**⑩諏訪原2**は、岩部山の北山麓、日影川の段丘上に位置する。明治期では屋敷地は一ヶ所だが付近に「古屋敷」の通称地名が残る。畑地中央を走る諏訪原道（諏訪原日影線）沿いに間口が狭く奥行きの長い地割が並び道沿いに屋敷が並んでいたものか。

**⑪諏訪原1**の集落は、岩部山の北山麓、日影川の段丘上に位置する。通称「田中」の畑地に刀工水心子正秀の生家があった。岩部山の山裾には屋敷地が見られ慶長元年（1596）上杉家臣の清水康徳が家臣に屋敷を与え諏訪神社を建立しこの地を諏訪原と呼ぶようになったと言う。それ以前の地名は不明だが天文二十二年（1553）晴宗公采地下賜録（以下「下賜録」と言う）に見える屋代中山の「五軒在家」があったのかもしれない。

**⑫代の集落**は、近世の米沢街道沿いに立地する。前川沿いに低地が広がり、湿地帯と谷川跡に挟まれた斜面地である。下賜録の「たいの在家」があったと思われる。

**⑬日影集落**は、岩部山や鷹戸山に囲まれた小盆地内に立地し、集落内を日影道が通る。日影道（川樋元中山線）は日影地区と川樋地区を結ぶ峠道で、古代から戦国時代においては最上と米沢を結ぶ主要道であったと思われる。この歴史的背景の影響か現況は藪道ながらも2級市道に区分されている。下賜録の「ひかけ在家」があったと思われる。山に囲まれ、集落の東には岩部山館跡が立地し、西には鷹戸山館跡を始めとする城郭遺跡が分布する要害の地である。

| 遺跡名 | 概要 |
|---|---|
| 岩部山館跡 | 標高 506m の岩部山に立地する。尾根の東半が山城で尾根の西半は馬場や馬つなぎ場と伝わる。山城から日影道の切通しまでの尾根頂は東西 1.7㎞、南北 0.7㎞で、このうちの山城部は長軸 305m である。比高 248m の山頂に 50m × 35m の長方形の主郭を置き背後の東斜面には階段状曲輪等を配する。県中世城館遺跡調査報告書では館域を東・西・北郭群の 3 つに区分している。西郭群は桝形虎口や折れ虎口等で東郭群と接続し内側に階段状曲輪を備えた駐屯地とする。西郭群の北虎口から北尾根伝いに 450m 程の所に北郭群がある。根小屋は不明だが諏訪原に根小屋的な集落があったか。北郭北側の山裾に大きな堀切状にも見える窪地があり、調査しなければわからないが旧街道から諏訪原地区への侵入に備えているようにも見える。別称「月見館」。伊達時代の中山要害の可能性も指摘される。 |
| 虚空蔵山館跡 | 川樋の集落西側、松林寺北西の山地に位置する。長軸 450m、短軸 100m、円錐状の山に築かれた山城である。東郭群、西郭群に分けられる。東郭群は山麓に位置し根小屋の小字名が残る。西郭群との間には土塁を備えた七曲りの大手虎口を配する。西郭群は山の稜線に沿って階段状曲輪を配し、標高 452m、比高 160m の山頂に 20.5m × 10m の不整長方形の主郭を置く。築城者、由緒等は不明。別称は「星見館」である。 |
| 鷹戸山館跡 | 鷹戸山（鷹取山）は川樋・元中山・釜渡戸・金山の 4 地区の境になっている。標高 617m、比高 330m の山頂に東西約 145m の主郭を置く。主郭から延びる枝尾根には鷹戸山東館跡が立地する。尾根上に地形を利用した曲輪、堀切等を配する。比高約 330m は県内の城館祉の中でもかなり高い。山頂の主郭からは遠く上山や山形方面まで見渡すことができる。 |
| 鷹戸山東館跡 | 鷹戸山山頂から日影地区方面に向って北東に延びる標高 529m、比高 158m の枝尾根上に主郭を置く。館の規模は東西約 260m、主郭部分は東西約 57m である。日影道を見下ろす位置にある。 |
| 館平館跡 | 川樋字館、唐沢堤の南斜面一帯に位置する。長軸 170m、短軸 80m。現在は開拓され遺構は階段状テラスと堀切の一部が残存する。別称「平井城」、伊達の家臣竹田喜五衛門が居住したと伝わる。 |
| 川樋館跡 | 川樋字寺浦、市道川樋線の南側に位置する。長軸 210m、短軸 100m の不整長方形の館跡である。唐沢堤に注ぐ谷川を堀とし、曲輪や階段状テラスが残る。南に隣接する館平館に関連するか一体である可能性もある。 |
| 中野森館跡 | 新田字中ノ森に位置する。川樋湿地内にある孤丘、通称「野中森」に築かれ、平面三角形の小山に三段の帯曲輪等が残る。栗野十郎左衛門尉宗次の隠居館と伝わり、享保絵図には蒲生氏の館と記されている。 |
| 大洞山館跡 | 標高 473m、比高 194m、城山とも呼ばれる川樋地区南東の大洞山に位置する。長軸 200m、短軸 50 m の山城である。主郭は長軸 88m、短軸 14m で大手道は主郭付近で両側を石塁で固め連続桝形を配する。 |
| 日影館跡 | 日影地区の西南に位置し、字外山から東に伸びる枝尾根上及び尾根端部に位置する松尾神社跡に遺構が残る。尾根頂の山城部は標高 420m、比高 103m に位置し、東西長 85m を測る。 |
| 北の沢館跡 | 元中山字北の沢に位置する。小規模な遺構群で日影道を挟んで岩部山館跡の北郭群と向かい合い、日影地区への入口にあたる。遺跡保護のため館跡として登録してあるものの、北の沢鉱山に関連する遺構や炭焼き等に関連する産業遺跡である可能性もあり、さらに調査が必要である。 |
| 北日影館跡 | 日影地区の永雲寺西側、南北二股に分かれた枝尾根に遺構が残る。北尾根が主郭と見られる。南尾根の山裾付近に根小屋を配したか。山頂の曲輪は小規模である。 |
| 日影小館跡 | 日影地区の西側、東に伸びる枝尾根先端部に遺構群が残る。小規模な館跡で東西長は約 100m。南に日影館跡、北に北日影跡が立地し、山裾の集落地は根小屋に相当するものか。 |

**表 3　中川の城館遺跡**

①館平館跡

②川樋館跡

③中野森館跡

④川樋字根小屋、⑤川樋集落

⑥新田集落

⑦小岩沢集落

第４図　中川の屋敷や館跡１

⑧花窪集落

⑨諏訪原４集落

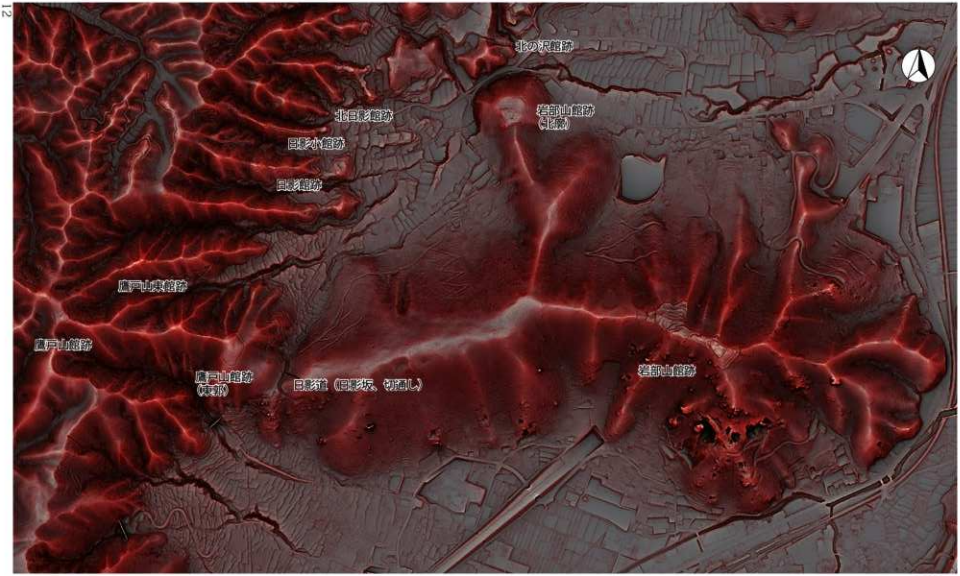
⑩諏訪原２集落

⑪諏訪原１集落

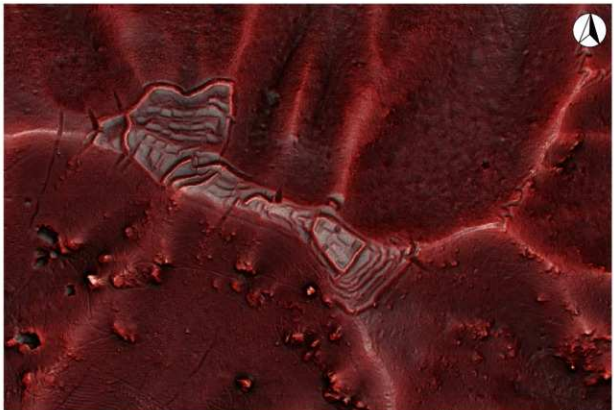
⑫代集落

⑬日影集落

第５図　中川の屋敷や館跡２

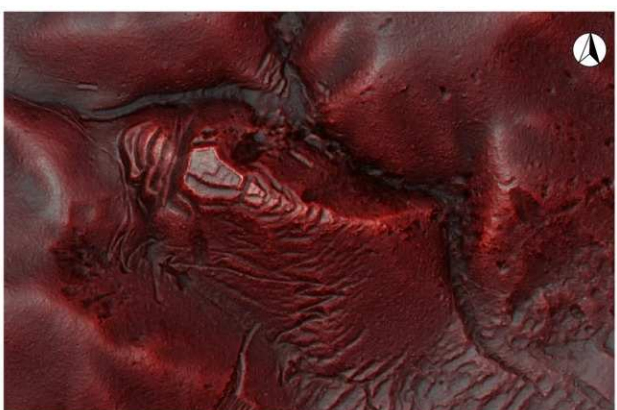



第６図　岩部山周辺の館跡（赤色立体図）



岩部山館跡

0　100m



虚空山館跡

0　100m

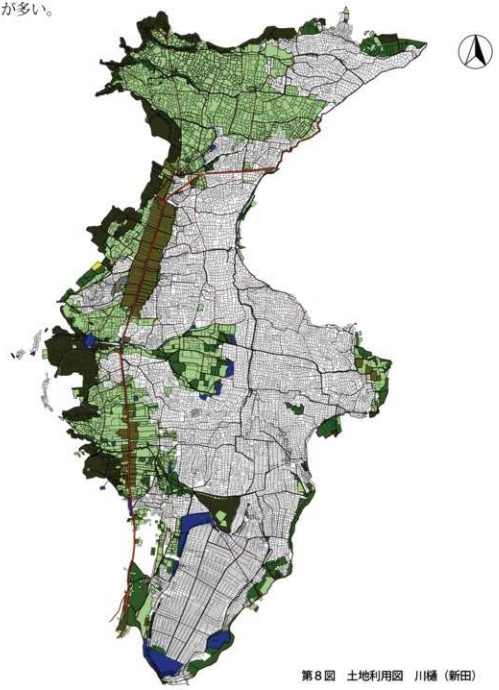
第７図　岩部山館跡、虚空山館跡（赤色立体図）

### （4）明治期の土地利用図（中川）

#### ①川樋（カワトイ）（新田含む）

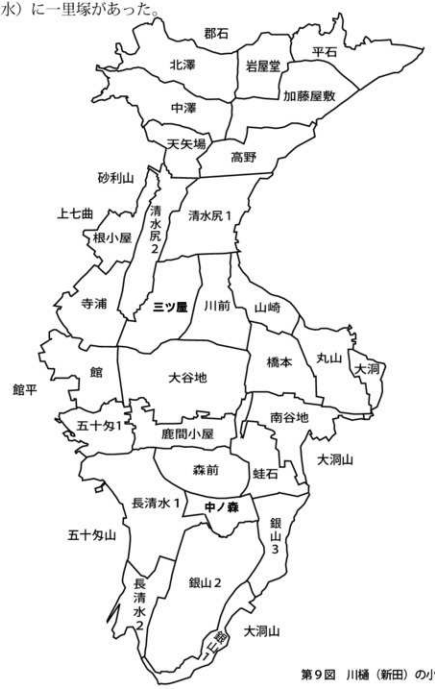
盆地の東半、前川が北流する一帯が川樋湿地で、小字名では南から「銀山」「長清水」「蛙石（びっさいし）」「南谷地」「橋本」「山崎」及びその周辺地にあたる。「北澤」「南澤」の沢等、山合いから多くの谷川が湿地や前川に向って流れ込んでおり、樋で水を引いたことが川樋の由来か。あるいは加藤屋敷付近の遺跡や中世城館の根小屋等が川（堀）や土井（土塁）に囲まれていたことに由来する可能性もあるだろうか。なお新田は開拓地名である。

「大谷地」は湿地を示すが土石流による扇状地状の地形が水田の中に広がっている。大谷地を埋めた土石流は川樋湿地に達し扇端に水が湧き複数の沼が生じている。この付近では元々唐沢の河川堆積の影響か前川の流路が全体に東に押されている。盆地にも関わらず水田に関連する地名は見られず、「川前」「山崎」「森前」「橋本」等、位置関係を示す地名が多い。



第８図　土地利用図　川樋（新田）

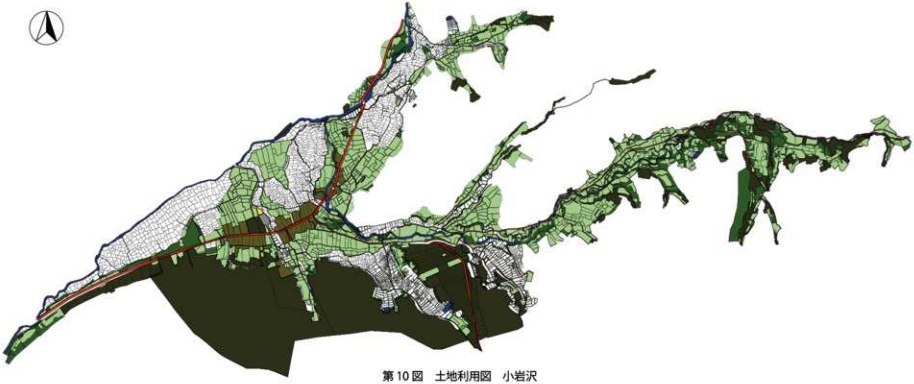
歴史的な地名も多く見られる。「銀山」「五十匁」は鉱山に由来する地名である。「大洞」の初出は天正十三年（1585）北条段銭帳で、洞は洞窟や溝を表わす。これが鉱山の坑道や露頭掘り跡を指すとすれば天正十三年以前から鉱山があったことになろうか。「鹿間小屋」「高野」のコウヤは開拓地名である。「加藤屋敷」は屋敷跡、「天矢場」は縄文時代の石鏃等が多く表採される土地である。「館」「根小屋」は中世城館跡に関連する。「砂利山」は鉱山のズリに由来するが、坂上田村麻呂東夷征伐の際に官軍戦死者を葬ったとの伝承が残る（赤湯町 1958）。「蛙石（びっきいし）」は大洞山の斜面にあったカエルの形をした岩、「岩屋堂」は岩部山の岩窟に由来する。「平石」も岩部山の岩の形に由来するものか。「郡石」「郡石山」は日影道沿いにあり古代の官衙関連地名や境石のような境界を表す地名とも思われる。付近には馬に関連する地名や伝承が多く、「北澤」には通称「馬立て」という地名等が残り、郡石には後三年の役にまつわる蹄岩という岩があった。また、新田の桜壇（字長清水）に一里塚があった。




第９図　川樋（新田）の小字名

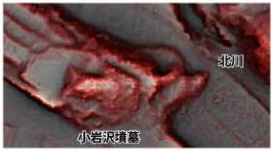
## ②小岩沢

小岩沢は、南沢山、黒森山、岩部山等の山々に囲まれ、南沢山の山裾を通る米沢街道沿いに集落が形成されている。集落の東を北流する北川が萱ケ作山の山裾を廻り、岩部山の南山麓で前川に合流する。地区名は小岩が流れてくる沢（北川）に由来するものか。「碇田」のイカリは溢れるという意味の災害地名で、湛水被害を受け易い土地である。「前田（まえだ）」は集落や屋敷の前の田を言い、南側の土地であることが多いがここでは集落の北に位置する。「前」をマイと読むように中川地区の小字の読みには訛（なま）りや方言が混じる例が見られる。例えば、川樋の「蛙（びっき）石」「長清水（すみず）」、釜渡戸の「祖父（おじ）ケ沢」「女（おなご）沢」等がある。「静御前（しずごぜん）」には弁天を祀る石祠と鏡池がある。鏡池には静御前が産湯に用いたという源義経に関連する伝説が残るが、地名の漢字は当て字で漢字そのものに意味がない場合も多い。この「静御前」も清水御前（しずしみずごぜん）からの転化で「清水の前」という意味か。この「静御前」の北端に位置する通称地名「廻戸（まっと）」（岩部山の東）には一里塚があった。



第10図　土地利用図　小岩沢

「萱ケ作」のサクは、狭く行き詰った谷や丘陵間の細長く入り組んだ水田を示す。「一ノ倉」等のクラは災害地名で、危険な急斜面を表し、崖崩れなどの災害の起こった土地に多く見られる。小岩沢地区には小岩沢山七つ倉と言われるほど「倉」地名が多く、山と浸食谷の多い小岩沢の地形的特徴を伝えている。また、字水上には、萱ケ作山の西端を北川が切り離して残った丘上に平安時代の墳墓とされる小岩沢墳墓がある。この丘は三段の方形塚状を呈するという意見もある（南陽市史編さん委員会 1987）が赤色立体図では一段の方形地形が見られる。小岩沢墳墓は石蓋の付いた平面方形の石槨で、内部からは「須恵器の蔵骨器が出土した」とも「何も出なかった」ともされ、墳墓以外に経塚等の可能性も考える必要があろうか。「仁王平」は仁王像を彫った木材を産した所と伝わる。

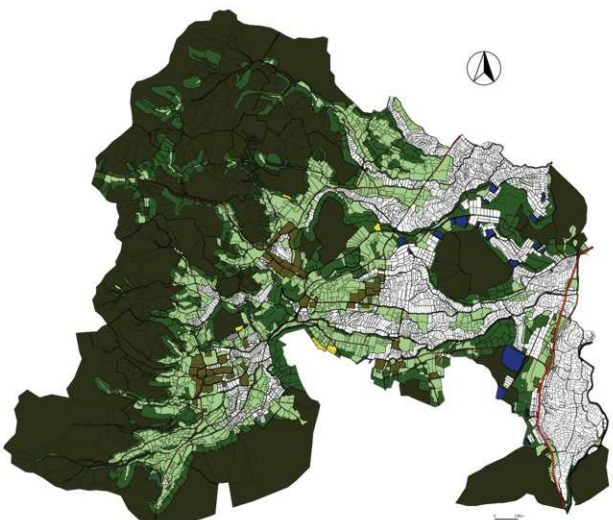


第 11 図　小岩沢の小字名

### ③元中山

元中山は中山盆地の南部にあたり元々は中山と呼ばれていた。最上領と伊達（上杉）領の境目の地域で、「中山」地名も国境を意味する言葉とされる。「上澤」「北ノ澤」等、西側の山間から前川へ流れこむ谷川が多く見られる。特に日影地区を源とする日影川は岩部山北側の「諏訪原」で長さ 1.2㎞以上にわたり高さ 4 ～ 8 mの崖線を形成し「代」の湿地帯へと流れ込み、岩部山館跡周辺の要害性を高めている。「代」のタイは低湿地、「大貝」のカイは狭い峡谷（谷川）を意味すると思われるが、「大貝」は「大開」（開拓地名）の可能性もある。「日影」のヒカゲは斜面や崖地を意味するが、山に囲まれて日影になりやすい地という意味もあろうか。天文二十二年（1553）晴宗公采地下賜録（以下「下賜録」と言う）によれば「代」と「日影」には屋代中山に属する「たいの在家」「ひかけ在家」(粟野氏の所領)があったと見られる。「花窪」のクボは窪んだ地形を表す。「竹原」の竹はしばしば館からの転化が見られる地名である。「諏訪ノ原」は諏訪神社に由来する。「金神林」、「金神林山」は鍛冶や製鉄に関わる金屋子神又は方位に関わる金神に関連する地名か。

元中山の集落は多くが「大貝」「諏訪原４」「日影」を通る古道近くに立地する。近世の米沢街道が通る「代」の東半は、明治期の字限図から低湿地帯であったことが読み取

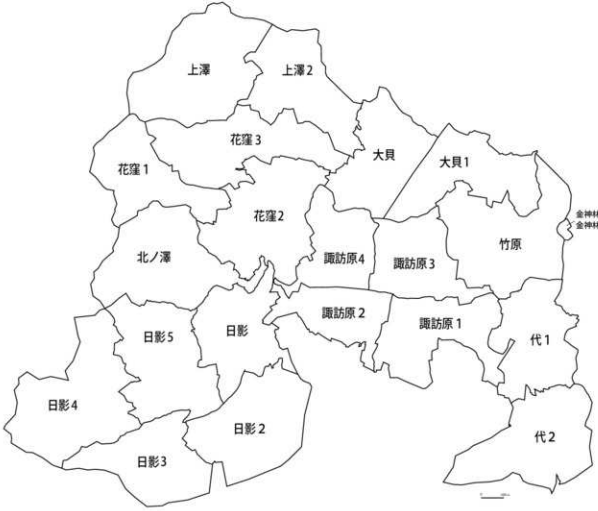


第 12 図　土地利用図　元中山

れる。沼地であった可能性もあり、前川沿いに集落が大きく発達する余地は少なかったと思われる。このような集落の立地や地形的状況に加え、古代の遺跡や中世城館跡の分布状況から、古代から戦国時代の主要道は前川沿いではなく、大貝、諏訪原４を通り日影から川樋に至る、いわゆる日影道を通る峠道であった可能性が高い。地域には後三年の役の際に日影道を通った源義家軍が岩部山の麓で岩屋堂合戦を行ったという伝承も残る（佐藤鎮雄他 2019）。

日影川と岩部山に挟まれた段丘上に位置する「諏訪原１・２」の集落は日影道からは外れているが諏訪原２の山裾には「古屋敷」の通称地名が残る。諏訪原の地名は慶長元年（1596）の諏訪神社建立に由来するという。下賜録に見える屋代中山の「たいの在家」や「ひかけ在家」と違い、同じ屋代中山にあった「五軒在家」（小梁川氏の所領）に関連する地名は残っていない。しかし、諏訪原が下賜録より新しい地名であることからすれば、元中山の中央に位置する諏訪原付近に「五軒在家」があった可能性もあろうか。

また、刀工の水心子正秀の生家は「諏訪原１」西端付近の通称地名「田中」にあった。地名が示すように明治期の字限図では南と北を旧河道の水田に挟まれ、東へ突き出た畑地となっている。




第 13 図　元中山の小字名

### ④釜渡戸（かまのはた）

釜渡戸は中山盆地の西方、元中山の国道 13 号線から西へ約 3 Km に位置する山間地で、北西に開口する谷底平野に家々が点在する。寛永十五年（1638）『懸入石中山之在釜渡戸高帳』（南陽市史編さん委員会 1991）では「釜渡戸」の漢字が当てられているが天明八年（1788）検地帳 ( 長井 1968) では「釜の端」と記す。地区名の由来は明らかではないが、「釜」は、釜のように窪んだ地形か、何らかの窯の操業にちなむ生産関連地名か、或は鉱山の本坑入口を「釜の口」と呼ぶことから北山鉱山等の鉱山に関係する地名であろうか。市史中巻でも「金山の坑口が釜に似ているところから釜の口ともいう。釜の端という集落名もこれから生まれたのではないかと思う」と記している。

地区には平家の滅亡や大坂夏の陣にまつわる落人伝説が伝わり、また隠れキリシタンに関係するマリア観音像と推測される子易観音が祀られている（※なお元中山の諏訪神社にも同様の石像がある）。

釜渡戸地区は良質な花崗岩（釜渡戸石）を産し、市内金山の金山石と共に旧山形県庁の石材として使用された。旧県庁の工事契約文書には釜渡戸石の産地として「釜渡戸字松ケ沢」と記されている。松ケ沢は西に開口する谷で、谷の北側が松ケ沢山、南側が祖父ケ沢山となり、その沢沿いには現在も矢穴跡の残る石材が見られる。

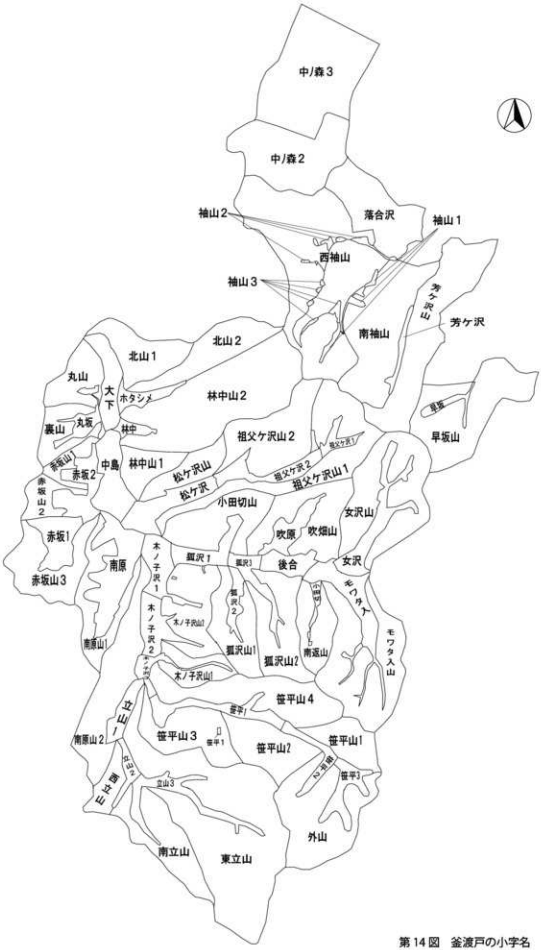
「立山」、「(東・西・南）立山」は、鷹戸山の北西に広がる小字名である。立山は館山の意味と思われる。鷹戸山館や鷹戸山東館等の城館に関連する地名か。また、江戸時代の文書である御林集には「物見山」という地名も記されているがその場所はわからない。現在の上山市中山に字物見山があることから、いずれにしても中山城（上山市）に関連する地名ではないかと思われる。

「吹原」や「吹畑山」のフケ・フキは湿地や崖地、水を含んで膨れる土地を意味する災害地名の例が知られているが、火を扱う窯か鉱山に関連する地名の可能性もあろうか。

「北山」は金を産した北山鉱山があった所で「ホタシメ」はほだしめ坑があった所である。懸入石中山之在釜渡戸高帳には「御釜の前」、「吹畠」という地名も見える。これらも同様に産業関連の地名と思われる。

自然地名では、「山」と付くものが全体の半数以上を占め、「沢」地名も多く、山間地である釜渡戸地区の地形的特徴を示している。

「モワタ入」や「モワタ入山」のモワダはシナノキのことで、モワダはかつては樹皮繊維として利用されることがあった。「木ノ子沢」や「木ノ子沢山」は葺に関連する植物地名であろう。




第14図　釜渡戸の小字名

## 第３章　南陽市中川、上山市中山の小字名及び地名

市内各地区の小字名、地名を地区別に記録する。その出典の凡例は表９のとおりである。なお、これによらない場合は文献名を直接記載した。また古文書に見られる在家は、地名として残っていないものを字名・地名欄に（）で示した。郡史・町村史で同じ小字名が複数回記載されている場合はそのまま掲載した。なお、中川地区の地理的・歴史的状況を踏まえ上山市中山の小字名も採録した。

| 年 | 文献名 | 記号 |
|---|---|---|
| 1525 | 伊達稙宗安堵状（大永五年） | A |
| 1538 | 鍋田郷土史（21 頁　天文七年御段銭古帳写） | B |
| 1553 | 晴宗公采地下賜録（天文二十二年） | C |
| 1585 | 天正十三年北条段銭帳 | D |
| 1638 | 寛永十五御検地帳羽付村 | E |
| 1638 | 寛永十五年漆山村之内本之沢須刈田御検地帳 | F |
| 1638 | 寛永拾五年北條之内漆山村御検地帳 | G |
| 1638 | 寛永十五年北條之内荻村御検地帳 | H |
| 1638 | 寛永十五年北条之内赤湯村御検地帳 | I |
| 1638 | 寛永十五年狛柳村検地帳 | J |
| 1639 | 萩生田村寛永拾六年水帳之事 | K |
| 1639 | 寛永十六年狛柳村検地帳（山形県史資料編９） | L |
| 1656 | 明暦二年御狩場之図 | Lb |
| 1739 | 元文四年温泉記（市史編集資料 26 号Ｐ 34） | M |
| 1767 | 明和四年北條之内長瀞村御検地帳 | N |
| 1781 | 鍋田郷土史（17・18 頁　天明元年） | O |
| 1786 | 天明六年文書 | P |
| 1790（1638） | 寛政二年写し　寛永十五年懸入石中山之在釜渡戸高帳 | Q |
| 1791 | 寛政三年赤湯村本地開改水帳 | R |
| 1794 | 寛政六年松沢村本地開改水帳 | S |
| 1824 | 文政七年金沢村本地開田畑水帳 | T |
| 1824 | 文政七年菅野改革水帳（赤湯町史 268 頁） | U |
| 1830 | 文政十三年田畑売買并当代下書留扣帳 | Ub |
| 1843 | 天保十四年新田村漆反別名寄帳 | V |
| 1849 | 嘉永二年赤湯村本地開改水帳 | W |
| 1858 | 安永五年羽付村田畑名寄帳 | Wb |
| | 永代売渡申田畑證文之事 | X |
| | 御林集（日本林制史資料：赤湯町史 345 － 346 頁 | Y |
| | 温泉記（市史資料集 26 号 49 頁） | Z |
| 1874 | 明治七年地租改正　地価帳　土地台帳写（鍋田邑） | aa |
| 1874 ～ 1893 | 明治七、八、二十六年字限図 | ab |
| 1876 | 明治九年新開墾帳（赤湯町史 360 頁） | ac |
| 1938 | 東置賜郡史（昭和 13・14 年） | ad |
| 1938 | 山形県地名録（昭和 13 年） | ae |
| 1968 | 赤湯町史（昭和 43 年） | af |
| 1973 | 沖郷村史（昭和 48 年） | ag |
| 1979 | 梨郷村史（昭和 54 年） | ah |
| 1981 | 角川日本地名大辞典（昭和 56 年） | ai |
| | 南陽市地名索引（安達） | aj |
| 1990 | 南陽市史（平成２年） | ak |
| 2010 | 南陽市島貫の歴史（平成 22 年） | al |
| 2013 | 平成 25 年税台帳 | am |

**表９　小字名・地名の出典**

## 1．中川 （1）川樋（新田含む）の小字名・地名

| NO | 地区名 | 字名（地名） | 読み | 出典 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 川樋 | | | ｶﾜﾄｲ (ae: ｶﾊﾄﾋ)、地元ではｶﾜﾄﾞｲとも言う | ae | 水を引いた樋に由来か。川土居であれば城館地名の可能性も。 |
| 1 | 川樋 | 寺浦 (ae: 寺ノ浦) | ﾃﾗｳﾗ | ad,ae,af,ai,ak,am | 寺の裏 |
| 2 | 川樋 | 長清水 | ﾅｶﾞｽﾐｽﾞ (ai: ﾅｶﾞｽﾐｽ、V,am: ﾅｶﾞｼﾐｽﾞ) | V,ad,ae,af,ai,ak,am | 湧水地 |
| 3 | 川樋 | 銀山 | ｷﾞﾝｻﾞﾝ | ad,ae,af,ai,ak,am | 鉱山地名 |
| 4 | 川樋 | 大兀 (af: 大禿) | ｵｵﾊｹﾞ | ad,ae,af,ai,ak,am | ﾊｹ（ﾊｯｹ）：崖 |
| 5 | 川樋 | 小兀 (af: 小禿) | ｺﾊｹﾞ | ad,ae,af,ai,ak,am | ﾊｹ（ﾊｯｹ）：崖 |
| 6 | 川樋 | 棚端山 (af: 柵端山) | ﾀﾅﾊﾞﾀﾔﾏ (am: ﾀﾅﾊｼﾔﾏ) | ad,ae,af,ai,ak,am | |
| 7 | 川樋 | 山崎 | ﾔﾏｻｷ | ad,ae,af,ai,ak,am | 山崎は神社が立地することが多い地名 |
| 8 | 川樋 | 鹿間小屋 | ｼｶﾏｺｺﾔ | ad,ae,af,ai,ak,am | ｺｳﾔ：近世開拓地名。新規開墾地は年限を決め免税し、荒野と呼んだ。 |
| 9 | 川樋 | 岩屋堂 (ad,af,ai,ak: 岩谷堂) | ｲﾜﾔﾄﾞｳ | ad,ae,af,ai,ak,am | 岩穴・岩陰に由来 |
| 10 | 川樋 | 兀山 (af: 禿山) | ﾊｹﾞﾔﾏ | ad,ae,af,ai,ak,am | 崖 |
| 11 | 川樋 | 五十匁 | ｺﾞｼﾞｳﾒ (af:ai: ｺﾞｼﾞｭｳﾒ) | ad,ae,af,ai,ak,am | 金の１目の産出量に由来する。鉱山地名 |
| 12 | 川樋 | 上五十匁 | ｶﾐｺﾞｼﾞｳﾒ (ai: ｶﾐｺﾞｼﾞｭｳﾒ) | ad,af,ai,ak,am | 鉱山地名 |
| 13 | 川樋 | 蛙石 | ﾋﾞｻｷｲｼ | ad,ae,af,ai,ak,am | 蛙に似た石に由来する |
| 14 | 川樋 | 清水尻 | ｽﾐﾀﾞｽﾞﾘ (ad: ｽﾐﾀﾞﾘ、am: ｼﾐｽﾞｼﾞﾘ) | ad,ae,af,ai,ak,am | 川樋湿地 |
| 15 | 川樋 | 山ノ神 | ﾔﾏﾉｶﾐ | ad,ae,af,ai,ak,am | 山神神社に由来 |
| 16 | 川樋 | 唐沢 | ｶﾗﾉｻﾜ (ai: ｶﾗｻﾜ、地元：ｶﾗﾝｻﾜ) | ad,ae,af,ai,ak,am | 空沢（普段は水量の少ない沢）の意か |
| 17 | 川樋 | 小屋場 | ｺﾔﾊﾞ | V,ad,ae,af,ai,ak,am | ｺﾔであれば開拓地名 |
| 18 | 川樋 | 一盃沢 | ｲｯﾊﾟｲｻﾜ | ad,ae,af,ai,ak,am | |
| 19 | 川樋 | 丸山 | ﾏﾙﾔﾏ | ad,ae,af,ai,ak,am | 山の形に由来か |
| 20 | 川樋 | 館 | ﾀﾃ | ad,ae,af,ai,ak,am | 中世城館地名 |
| 21 | 川樋 | 館平 | ﾀﾃﾀｲﾗ (ai: ﾀﾃﾀﾞｲﾗ) | ad,ae,af,ai,ak,am | 中世城館地名、館平館跡(別名：平井城) |
| 22 | 川樋 | 砂利山 | ｻﾞﾘﾔﾏ (am: ｼﾞｬﾘﾔﾏ) | ad,ae,af,ai,ak,am | 鉱山地名、ズリ山か。坂上田村麻呂東夷征伐の折、官軍戦死者を古墳に埋めたという伝説あり |
| 23 | 川樋 | 吉蔵田 | ｷﾁｺﾞｳﾀ (ai: ｷﾁｺﾞｳﾀﾞ) | ad,ae,af,ai,ak,am | 人名か |
| 24 | 川樋 | 大沢 | ｵｵｻﾜ | ad,ae,af,ai,ak,am | |
| 25 | 川樋 | 橋本 | ﾊｼﾓﾄ | ad,ae,af,ai,ak,am | |
| 26 | 川樋 | 上七曲 | ｶﾐﾅﾅﾏｶﾞﾘ | ad,ae,af,ai,ak,am | 山の斜面の九十九折の道に由来 |
| 27 | 川樋 | 下七曲 | ｼﾓﾅﾅﾏｶﾞﾘ | ad,ae,af,ai,ak,am | |
| 28 | 川樋 | 川前 | ｶﾜﾏｲ | ad,ae,af,ai,ak,am | |
| 29 | 川樋 | 大堂山 | ｵｵﾄﾞｳﾔﾏ | ad,af,ai,ak | |
| 30 | 川樋 | 処沢 | ﾄｺﾛｻﾜ | ad,ae,af,ai,ak,am | |
| 31 | 川樋 | 郡石 | ｺｵﾘｲｼ (am: ｺﾞﾘｲｼ) | ad,af,ai,ak,am | 官衙地名か。境石か |
| 32 | 川樋 | 小郡石 | ｺｺﾞｵﾘｲｼ | ae,ai | 官衙地名か。境石か。中郡石という地名もある |
| 33 | 川樋 | 加藤屋敷 | ｶﾄｳﾔｼｷ | ad,ae,af,ai,ak,am | 屋敷跡か |
| 34 | 川樋 | 大洞山 | ｵｳﾎﾗﾔﾏ | ad,ae,af,ai,ak,am | 洞は洞窟や溝 |
| 35 | 川樋 | 大洞 | ｵｳﾎﾗ | ae,am | 洞は洞窟や溝 |
| 36 | 川樋 | 白旗平 | ｼﾗﾊﾀﾀﾞｲﾗ | ad,af,ai,ak,am | 源氏の伝説がある白幡神社あり |
| 37 | 川樋 | 白旗山 | ｼﾗﾊﾀﾔﾏ | ae,ai,am | 源氏の伝説がある白幡神社あり |
| 38 | 川樋 | 大谷地 | ｵｵﾔﾁ | ad,ae,af,ai,ak,am | 川樋湿地 |
| 39 | 川樋 | 南谷地 | ﾐﾅﾐﾔﾁ | ae,am | 川樋湿地 |
| 40 | 川樋 | 岩部山 | ｲﾜﾍﾞﾔﾏ | ad,ae,af,ai,ak | 岩の多い山。岩部山館跡 |
| 41 | 川樋 | 岩部 | ｲﾜﾌﾞ | am | |

| NO | 地区名 | 字名（地名） | 読み | 出典 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 42 | 川樋 | 大堂 | ｵｵﾄﾞｳ | ad,af,ai,ak | |
| 43 | 川樋 | 高野 | ｺｳﾔ | ad,ae,af,ai,ak,am | ｺｳﾔ：開拓地名 |
| 44 | 川樋 | 中沢 | ﾅｶｻﾜ | af,ai | |
| 45 | 川樋 | 北中沢 | ｷﾀﾅｶｻﾜ | ad,af,ak | |
| 46 | 川樋 | 北沢 | ｷﾀｻﾜ | ae,ai,am | |
| 47 | 川樋 | 中沢 | ﾅｶｻﾞﾜ | am | |
| 48 | 川樋 | 南中沢 | ﾐﾅﾐﾅｶｻﾞﾜ | ad,af,ak | |
| 49 | 川樋 | 南沢 | ﾐﾅﾐｻﾜ | ae,ai,am | |
| 50 | 川樋 | 天矢場 | ﾃﾝﾔﾊﾞ | ad,ae,af,ai,ak,am | 縄文時代の石鏃等が表採されることに由来 |
| 51 | 川樋 | 根小屋 | ﾈｺﾞﾔ | ad,ae,af,ai,ak,am | 中世城館地名 |
| 52 | 川樋 | 平石 | ﾋﾗｲｼ | ad,ae,af,ai,ak,am | |
| 53 | 川樋 | 三ツ屋 | ﾐﾂﾔ | ad,ae,af,ai,ak,am | 水屋か |
| 54 | 川樋 | 森前　(ae: 森ノ前) | ﾓﾘﾏｴ | ad,ae,af,ai,ak,am | 中ノ森の西側 |
| 55 | 川樋 | 中ノ森 | ﾅｶﾉﾓﾘ | ad,ae,af,ai,ak,am | 中野森館跡 |
| 56 | 川樋 | 稲葉山　(ae: 稲場山) | ｲﾅﾊﾞﾔﾏ | ad,ae,af,ai,ak,am | |
| 57 | 川樋 | 橋抜 | ﾀﾁﾊﾞﾅﾇｷ | ad,ae,af,ai,ak,am | 鉱山の排水口。橋は人名 |
| 58 | 川樋 | 赤土 | ｱｶﾂﾁ | am | 鉱山関連地名 |
| 59 | 川樋 | 新田 | ｼﾝﾃﾞﾝ | ae | 近世開拓地名 |
| 60 | 川樋 | 朝日清水 | ｱｱｻﾋｼﾐｽﾞ | V,X | 湧水地 |
| 61 | 川樋 | 森山 | ﾓﾘﾔﾏ | V,X | ﾓﾘ：霊場 |
| 62 | 川樋 | 墓所 | ﾎﾞｼｮ | V | |
| 63 | 川樋 | 墓所南 | ﾎﾞｼｮﾐﾅﾐ | V | |
| 64 | 川樋 | 墓所東 | ﾎﾞｼｮﾋｶﾞｼ | V | |
| 65 | 川樋 | 墓所前 | ﾎﾞｼｮﾏｴ | V | |
| 66 | 川樋 | 墓所上 | ﾎﾞｼｮｳｴ | V | |
| 67 | 川樋 | 出張 | ﾃﾞﾊﾞﾘ | V | |
| 68 | 川樋 | 下出張 | ﾃﾞﾓﾃﾞﾊﾞﾘ | V | |
| 69 | 川樋 | 五拾目 | ｺﾞｼﾞｭｳﾒ | V | 鉱山関連地名か |
| 70 | 川樋 | 五拾目小屋場 | ｺﾞｼﾞｭｳﾒｺﾔﾊﾞ | V | 鉱山関連地名か |
| 71 | 川樋 | 五拾目墓所 | ｺﾞｼﾞｭｳﾒﾎﾞｼｮ | V | 鉱山関連地名か |
| 72 | 川樋 | 五拾目南 | ｺﾞｼﾞｭｳﾒﾐﾅﾐ | V | 鉱山関連地名か |
| 73 | 川樋 | 五拾目西 | ｺﾞｼﾞｭｳﾒﾆｼ | V | 鉱山関連地名か |
| 74 | 川樋 | 五十目元右衛門畑 | ｺﾞｼﾞｭｳﾒﾓﾄｳｴﾓﾝﾊﾞﾀｹ | V | 鉱山関連地名か、人名 |
| 75 | 川樋 | 鎖守下 | ﾁﾝｼﾞｭｼﾀ | V | |
| 76 | 川樋 | 屋敷下 | ﾔｼｷｼﾀ | V | |
| 77 | 川樋 | やしき | ﾔｼｷ | V | |
| 78 | 川樋 | 屋敷裏 | ﾔｼｷｳﾗ | V | |
| 79 | 川樋 | 上ノ屋敷 | ｳｴﾉﾔｼｷ | V | |
| 80 | 川樋 | 上ノ屋敷横道ノ上 | ｳｴﾉﾔｼｷﾖｺﾐﾁﾉｳｴ | V | |
| 81 | 川樋 | 中ノ屋敷 | ﾅｶﾉﾔｼｷ | V | |
| 82 | 川樋 | 坊屋敷 | ﾎﾞｳﾔｼｷ | V | |
| 83 | 川樋 | 居屋敷 | ｲﾔｼｷ | V | |
| 84 | 川樋 | 向ノ屋敷 | ﾑｶｲﾉﾔｼｷ | V | |
| 85 | 川樋 | 大沢口 | ｵｵｻﾜｸﾞﾁ | V | |
| 86 | 川樋 | 長畑 | ﾅｶﾞﾊﾀｹ | V | |
| 87 | 川樋 | 長畑南 | ﾅｶﾞﾊﾀｹﾐﾅﾐ | V | |
| 88 | 川樋 | 曲畑 | ﾏｶﾞﾘﾊﾞﾀｹ | V | |
| 89 | 川樋 | 丸畑 | ﾏﾙﾊﾞﾀｹ | V | |
| 90 | 川樋 | 丸畑ノ上 | ﾏﾙﾊﾞﾀｹﾉｳｴ | V | |
| 91 | 川樋 | ゴロ下タ | ｺﾞﾛｼﾀ | V | 岩場 |
| 92 | 川樋 | 狼落シ | ｵｵｶﾐｵﾄｼ？ｵｴｵﾄｼ？ | V | |
| 93 | 川樋 | 朴ノ木畑北 | ﾎｳﾉｷﾊﾀｷﾀ | V | |
| 94 | 川樋 | 桐ノ木畑 | ｷﾘﾉｷﾊﾞﾀｹ | V | |
| 95 | 川樋 | 金兵衛畑 | ｷﾝﾍﾞｴﾊﾞﾀ | V | 人名 |
| 96 | 川樋 | 鳥上ケ | ﾄﾘｱｹﾞ | V | |
| 97 | 川樋 | 青苧畑 | ｱｵｿﾊﾞﾀｹ | V | 青芋の畑 |

| NO | 地区名 | 字名（地名） | 読み | 出典 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 98 | 川樋 | 砂押 | ｽﾅｵｼ | V | 災害地名 |
| 99 | 川樋 | 干場北 | ﾎｼﾊﾞｷﾀ | V | |
| 100 | 川樋 | 御小屋北 | ｵﾝｺﾔｷﾀ | V | |
| 101 | 川樋 | 小屋場南 | ｺﾔﾊﾞﾐﾅﾐ | V | |
| 102 | 川樋 | 小屋場上 | ｺﾔﾊﾞｳｴ | V | |
| 103 | 川樋 | 樋口 | ﾄｲｸﾞﾁ | V | |
| 104 | 川樋 | 地蔵堂上 | ｼﾞｿﾞｳﾄﾞｳｳｴ | V | |
| 105 | 川樋 | 町頭 | ﾏﾁｶﾞｼﾗ | V | |
| 106 | 川樋 | 街頭東 | ﾏﾁｶﾞｼﾗﾋｶﾞｼ | V | |
| 107 | 川樋 | 十右衛門裏 | ｼﾞｭｳｴﾓﾝｳﾗ | V | |
| 108 | 川樋 | 一里塚 | ｲﾁﾘﾂﾞｶ | V | 一里塚、新田地区か |
| 109 | 川樋 | 御行林 | ｺﾞｷｮｳﾊﾞﾔｼ？ | V | |
| 110 | 川樋 | 三左右衛門畑 | ｻﾝｻﾞｳｴﾓﾝﾊﾞﾀｹ | V | 人名 |
| 111 | 川樋 | 八百蔵畑 | ﾔｵｿﾞｳﾊﾞﾀｹ | V | 人名 |
| 112 | 川樋 | 境田土手 | ｻｶｲﾀﾞﾄﾞﾃ | V | 土手地 |
| 113 | 川樋 | 壱本木 | ｲｯﾎﾟﾝｷﾞ | V | |
| 114 | 川樋 | 漆原 | ｳﾙｼﾊﾗ | V | |
| 115 | 川樋 | 町尻東 | ﾏﾁｼﾞﾘﾋｶﾞｼ | V | |
| 110 | 川樋 | 地付山 | ｼﾞﾂﾞｹﾔﾏ | Y | |
| 111 | 川樋 | 新田桜壇 | ｼﾝﾃﾞﾝｻｸﾗﾀﾞﾝ | 市史中巻 | 壇は近世墓地 |

## 1．中川 （2）小岩沢の小字名・地名

| NO | 地区名 | 字名（地名） | 読み | 出典 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 小岩沢 | | | ｺｲﾜｻﾜ | ae,ai | 文禄３年高目録帳では小湯澤と表記 |
| 1 | 小岩沢 | 水上 | ﾐｽﾞｶﾐ (ad: ｼﾞｶﾐ) | ad,ae,af,ai,ak,am | 小川の上流地 |
| 2 | 小岩沢 | 南沢山 | ﾐﾅﾐｻﾜﾔﾏ | ad,ae,af,ai,ak,am | |
| 3 | 小岩沢 | 日向 | ﾋﾅﾀ | ad,ae,af,ai,ak,am | |
| 4 | 小岩沢 | 中ノ倉 | ﾅｶﾉｸﾗ | ad,ae,af,ai,ak,am | ｸﾗ：災害地名。危険な急斜面を表し、崖崩れなどの災害の起こった土地に多く見られる。 |
| 5 | 小岩沢 | 御林下 | ｵﾊﾔｼｼﾀ | ad,ae,af,ai,ak,am | |
| 6 | 小岩沢 | 静御前 | ｼｽﾞｺﾞｾﾞﾝ (ad: ｼﾞｽﾞｺﾞｾﾞﾝ、am: ｼｽﾞｶｺﾞｾﾞﾝ) | ad,ae,af,ai,ak,am | 清水御前の転化か。弁天の祠あり。静御前に関連した伝説あり。通称「廻戸」に一里塚があった |
| 7 | 小岩沢 | 橋本 | ﾊｼﾓﾄ | ad,ae,af,ai,ak,am | |
| 8 | 小岩沢 | 影沢 | ｶｹﾞｻﾞﾜ | ad,ae,af,ai,ak,am | |
| 9 | 小岩沢 | 深沢 | ﾌｶｻﾜ | ad,ae,af,ai,ak,am | |
| 10 | 小岩沢 | 免古倉 | ﾒﾝｺｸﾗ (ae,af: ﾈｺｸﾞﾗ) | ad,ae,af,ai,ak,am | ｸﾗ：災害地名 |
| 11 | 小岩沢 | 手這山 | ﾃﾊﾞｲﾔﾏ (ae: ﾃﾝﾊｲﾔﾏ) | ad,ae,af,ai,ak,am | 手で這って登るような急斜面の山の意味 |
| 12 | 小岩沢 | 柴倉山 | ｼﾊﾞｸﾗﾔﾏ | ad,ae,af,ai,ak,am | ｸﾗ：災害地名 |
| 13 | 小岩沢 | 日向山 | ﾋﾅﾀﾔﾏ | ad,ae,af,ai,ak,am | |
| 14 | 小岩沢 | 前田 | ﾏｴﾀ | ad,ae,af,ai,ak,am | |
| 15 | 小岩沢 | 岩部山 | ｲﾜﾌﾞﾔﾏ (ad,ai: ｲﾜﾍﾞﾔﾏ) | ad,af,ai,ak,am | 岩部山館 |
| 16 | 小岩沢 | 黒森山 | ｸﾛﾓﾘﾔﾏ | ad,af,ai,ak,am | ｸﾛも刈も境目の霊地を意味する |
| 17 | 小岩沢 | 仁王平 | ﾆｵｳﾀｲﾗ | ad,ae,af,ai,ak,am | 仁王像を彫った木材を産した所という |
| 18 | 小岩沢 | 仁王平山 | ﾆｵｳﾀｲﾗﾔﾏ | ad,ae,af,ai,ak,am | |
| 19 | 小岩沢 | 碇田 | ｲｶﾘﾀﾞ | ad,ae,af,ai,ak,am | ｲｶﾘ：洪水地名。ｲｶﾘ：アイヌ語で混濁の意味 |
| 20 | 小岩沢 | 滝ノ沢山 | ﾀｷﾉｻﾜﾔﾏ | ad,ae,af,ai,ak,am | |
| 21 | 小岩沢 | 一ノ倉 | ｲﾁﾉｸﾗ | ad,ae,af,ai,ak,am | ｸﾗ：災害地名 |
| 22 | 小岩沢 | 一ノ倉山 | ｲﾁﾉｸﾗﾔﾏ | ad,ae,af,ai,ak,am | |
| 23 | 小岩沢 | 萱ケ作 | ｶﾔｶﾞｻｸ | ad,ae,af,ai,ak,am | ｻｸ：狭く行き詰った谷、丘陵間の細長く入り組んだ水田 |
| 24 | 小岩沢 | 萱ケ作山 | ｶﾔｶﾞｻｸﾔﾏ | ad,ae,af,ai,ak,am | |
| 25 | 小岩沢 | 村東 | ﾑﾗﾋｶﾞｼ | ad,ae,af,ai,ak,am | |
| 26 | 小岩沢 | 林下 | ﾊﾔｼｼﾀ | am | |
| 27 | 小岩沢 | 地付山 | ﾁﾞﾂﾞｹﾔﾏ | Y | |
| 28 | 小岩沢 | 南沢狐倉山 | ﾐﾅﾐｻﾜｷﾂﾈｸﾗﾔﾏ | 市史編集資料第 11 号「小岩沢村肝照・間屋文書」 | |
| 29 | 小岩沢 | 御堂山 | ﾐﾄﾞｳﾔﾏ | 〃 | |
| 30 | 小岩沢 | 南沢丑ケ首山 | ﾐﾅﾐｻﾜｳｼｶﾞｸﾋﾞﾔﾏ | 〃 | |
| 31 | 小岩沢 | 懸戸ケ入山 | ｶｹﾄﾞｶﾞｲﾘﾔﾏ | 〃 | |
| 32 | 小岩沢 | 志田山 | ｼﾀﾞﾔﾏ | 〃 | |
| 33 | 小岩沢 | 吉蔵山 | ｷﾁｿﾞｳﾔﾏ | 〃 | 人名 |
| 34 | 小岩沢 | 清五郎山 | ｾｲｺﾞﾛｳﾔﾏ | 〃 | 人名 |
| 35 | 小岩沢 | 次吉山 | ｼﾞｷﾁﾔﾏ | 〃 | 人名 |
| 36 | 小岩沢 | 鉢ケ森山 | ﾊﾁｶﾞﾓﾘﾔﾏ | 〃 | |
| 37 | 小岩沢 | 岩部松野山 | ｲﾜﾌﾞﾏﾂﾉﾔﾏ | 〃 | |
| 38 | 小岩沢 | 大潤 | ｵｵﾋﾞｷ | 〃 | |
| 39 | 小岩沢 | 中之橋 | ﾅｶﾉﾊｼ | 〃 | |
| 40 | 小岩沢 | 廻戸 | ﾏﾜﾄ | 市史中巻 | NO6 静御前関連。岩部山東端の山裾で、一里塚があった。 |

## １．中川 （３）元中山の小字名・地名

| ＮＯ | 地区名 | 字名（地名） | 読み | 出典 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 元中山 | | | ﾓﾄﾅｶﾔﾏ | ae | |
| 1 | 元中山 | 諏訪原 | ｽﾜﾊﾗ (ai: ｽﾜﾊﾗ) | ad,ae,af,ai,ak,am | 諏訪神社 |
| 2 | 元中山 | 諏訪ノ山 | ｽﾜﾉﾔﾏ | ae | |
| 3 | 元中山 | 北ノ沢 | ｷﾀﾉｻﾜ | ad,ae,af,ai,ak,am | |
| 4 | 元中山 | 大貝 | ｵｵｶﾞｲ | ad,ae,af,ai,ak,am | ｶｲ：狭い谷。或は大開で開拓地名か |
| 5 | 元中山 | 岩上沢 | ｲﾜｶﾐｻﾜ | ad,ae,af,ai,ak,am | |
| 6 | 元中山 | 日影 | ﾋｶｹﾞ | C ,ad,ae,af,ai,ak,am | ﾋｶｹﾞ：斜面、崖地 |
| 7 | 元中山 | ひかげ在家 | ﾋｶｹﾞｻﾞｲｹ | C | 日影在家 |
| 8 | 元中山 | 代 | ﾀﾞｲ | ad,ae,af,ai,ak,am | 晴宗公采地下賜録（天文22年(1554年)に「たいの在家」。ﾀｲ：段丘に関係する低湿地 |
| 9 | 元中山 | たいの在家 | ﾀﾞｲﾉｻﾞｲｹ | C | 代の在家 |
| 10 | 元中山 | 花窪 | ﾊﾅｸﾎﾞ | ad,ae,af,ai,ak,am | ｸﾎﾞ：窪んだ土地 |
| 11 | 元中山 | 竹原 | ﾀｹﾊﾗ (ai,am: ﾀｹﾊﾗ) | ad,ae,af,ai,ak,am | 竹は館から転化する例が知られている |
| 12 | 元中山 | 金神林 | ｺﾝｼﾞﾝﾊﾞﾔｼ | am | 金神は方位神、金屋子神は鍛冶・製鉄に関連する神 |
| 13 | 元中山 | 金神林山 | ｺﾝｼﾞﾝﾊﾞﾔｼﾔﾏ | am | |

## 1．中川 （4）釜渡戸の小字名・地名

| NO | 地区名 | 字名（地名） | 読み | 出典 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 釜渡戸（天明八年検地帳：釜の端） | | | カマノハタ | ae, 北條郷鉱山史話 | 鉱山本坑入口を「釜の口」とも言う |
| 1 | 釜渡戸 | 立山 | タテヤマ | Q.ae,ai,ak,am | 立は館の転化の例が知られている |
| 2 | 釜渡戸 | 西立山 | ニシタテヤマ | ae,ai,am | 〃 |
| 3 | 釜渡戸 | 南立山 | ミナミタテヤマ | ae,ai,am | 鷹戸山館跡 |
| 4 | 釜渡戸 | 東立山 | ヒガシタテヤマ | ae,ai,am | 〃 |
| 5 | 釜渡戸 | 赤坂 | アカサカ | Q.ae,ai,ak,am | アカ：赤土か斜面を表す |
| 6 | 釜渡戸 | 赤坂山 | アカサカヤマ | ae,ai,am | |
| 7 | 釜渡戸 | 林中 | ハヤシナカ | Q.ai,ak,am | |
| 8 | 釜渡戸 | 林中山 | ハヤシナカヤマ | ai,am | |
| 9 | 釜渡戸 | 裏山 | ウラヤマ | ae,ai,ak,am | |
| 10 | 釜渡戸 | 南原 | ミナミハラ | Q.ae,ai,ak,am | |
| 11 | 釜渡戸 | 早坂 | ハヤサカ | ae,ai,ak,am | |
| 12 | 釜渡戸 | 早坂山 | ハヤサカヤマ | ae,ai,am | |
| 13 | 釜渡戸 | 大下 | オオシタ | ae,ai,ak,am | |
| 14 | 釜渡戸 | 袖山 (Q: そで山) | ソデヤマ | Q.ae,ai,ak,am | |
| 15 | 釜渡戸 | 西袖山 | ニシソデヤマ | ae,ai,am | |
| 16 | 釜渡戸 | 南袖山 | ミナミソデヤマ | ae,ai,am | |
| 17 | 釜渡戸 | 祖父山 | ヂヂヤマ | ak | |
| 18 | 釜渡戸 | 祖父ケ沢 | ヂヂァサワ (af: チチアサワ、am: ソフガサワ) | ae,ai,am | |
| 19 | 釜渡戸 | 祖父ケ沢山 | ヂヂガサワヤマ (ai: ジジガサワヤマ、am: ソフガサワヤマ) | ae,ai,am | |
| 20 | 釜渡戸 | 松ケ沢 | マツガサワ | Q.ae,ai,ak,am | 旧県庁の石材産地 |
| 21 | 釜渡戸 | 松ケ沢山 | マツガサワヤマ | ae,ai,am | |
| 22 | 釜渡戸 | モワタ入 (Q: もわた入、茂和田入) | モワタイリ | Q.ae,ai,ak,am | モワダ：シナノキのこと。樹皮繊維として利用される。 |
| 23 | 釜渡戸 | モワタ入山 | モワタイリヤマ | ae,ai,am | |
| 24 | 釜渡戸 | 木ノ子沢 | キノコザワ | Q.ae,ai,ak,am | 植物地名：茸 |
| 25 | 釜渡戸 | 木ノ子沢山 | キノコザワヤマ (ai: キノコサワヤマ) | ae,ai,am | |
| 26 | 釜渡戸 | 芳ケ沢 | ヨシガサワ | ae,ai,ak,am | |
| 27 | 釜渡戸 | 芳ケ沢山 | ヨシガザワヤマ (ai: ヨシガサワヤマ) | ae,ai,am | |
| 28 | 釜渡戸 | 後合 | ウシロアワセ (ai: アトアワセ) | ae,ai,ak,am | |
| 29 | 釜渡戸 | 吹原 | フキハラ | ae,ai,ak,am | 窯址や製鉄関連地名か |
| 30 | 釜渡戸 | 吹畑山 | フキハタヤマ | ae,ai,am | 〃 |
| 31 | 釜渡戸 | 中島 | ナカジマ | ae,ai,ak,am | |
| 32 | 釜渡戸 | 丸坂 | マルザカ (ai: マルサカ、am: マンザカ) | Q.ae,ai,ak,am | |
| 33 | 釜渡戸 | 小田切 (Q: 小だきれ) | オダギレ (ai: オダキリ) | Q.ae,ai,ak,am | タキリ：川が浸食した傾斜地 |
| 34 | 釜渡戸 | 小田切山 | オダギレヤマ (ai: オダキリヤマ) | ae,ai,am | |
| 35 | 釜渡戸 | 笹平 (Q: ささか平) | ササガダイラ (ai: ササタイラ) | Q.ae,ai,ak,am | |
| 36 | 釜渡戸 | 女沢 | オナゴザワ (ai: オンナザワ) | Q.ae,ai,ak,am | |
| 37 | 釜渡戸 | 女沢山 | オナゴザワヤマ (ai: オンナザワヤマ) | ae,ai,am | |
| 38 | 釜渡戸 | ホタシメ | ホタシメ | ae,ai,ak,am | ほだしめ坑に由来 |
| 39 | 釜渡戸 | 狐沢 | キツネザワ | Q.ae,ai,am | |
| 40 | 釜渡戸 | 丸山 | マルヤマ | ae,ai,am | |
| 41 | 釜渡戸 | 南原山 | ミナミハラヤマ | ae,ai,am | |
| 42 | 釜渡戸 | 外山 | ソトヤマ | Q.ae,ai,am | |
| 43 | 釜渡戸 | 笹平山 | ササダイラヤマ | ae,ai,am | |
| 44 | 釜渡戸 | 狐沢山 | キツネザワヤマ (ai: キツネサワヤマ) | ae,ai,am | |

| NO | 地区名 | 字名（地名） | 読み | 出典 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 45 | 釜渡戸 | 南返山 | ﾐﾅﾐｶｴﾘﾔﾏ (ae: ﾐﾅﾐﾐﾞﾍﾘﾔﾏ、ai: ﾐﾅﾐｶｲｼﾔﾏ) | ae,ai,am | |
| 46 | 釜渡戸 | 北山 | ｷﾀﾔﾏ | ae,ai,am | 北山鉱山 |
| 47 | 釜渡戸 | 落合沢 | ｵﾁｱｲｲｻﾜ (ai: ｵﾂﾌﾟｲｲﾞｻﾜ) | Q,ae,ai,am | |
| 48 | 釜渡戸 | 中ノ森 | ﾅｶﾉﾓﾘ | ae,ai,am | |
| 49 | 釜渡戸 | 上りは | ｱｶﾞﾘﾊﾞ | Q | |
| 50 | 釜渡戸 | お釜（御釜）ノ前 | ｵｶﾏﾉﾏｴ | Q | 坑口か |
| 51 | 釜渡戸 | タナカ | ﾀﾅｶ | Q | 田中 |
| 52 | 釜渡戸 | 山ノ神（山神） | ﾔﾏﾉｶﾐ | Q | |
| 53 | 釜渡戸 | 吹畠 | ﾌｷﾊﾞﾀｹ | Q | 窯跡や製鉄関連か |
| 54 | 釜渡戸 | 当間 | ﾄｳｶｲ | Q | |
| 55 | 釜渡戸 | 中屋敷 | ﾅｶﾔｼｷ | Q | |
| 56 | 釜渡戸 | だんの前 | ﾀﾞﾝﾉﾏｴ | Q | 壇の前 |
| 57 | 釜渡戸 | 深田（ふか田） | ﾌｶﾀﾞ | Q | |
| 58 | 釜渡戸 | 三辻 | ﾐﾂｼﾞ | Q | |
| 59 | 釜渡戸 | 中畠 | ﾅｶﾊﾞﾀｹ | Q | |
| 60 | 釜渡戸 | 松ブシ山 | ﾏﾂﾌﾞｼﾔﾏ | Y | |
| 61 | 釜渡戸 | 物見山 | ﾓﾉﾐﾔﾏ | Y | 中世城館地名 |

## 1．中川 （5）その他の地名等

| NO | 地区名 | 地名 | 読み | 出典 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 川樋 | コワ清水 | ｺﾜｼﾐｽﾞ | 市史編集資料第 11 号 | 大洞山ヨリ湧水スル水源「コワ清水」ヲ入水スル |
| 2 | 川樋 | 馬たて | ｳﾏﾀﾃ | 昭和 33、34 年赤湯小学校社会科資料 | 川樋字北澤付近。北に字郡石がある |
| 3 | 川樋 | 中郡石 | ﾅｶｺｵﾘｲｼ | 市史 | 岩部山 |
| 4 | 川樋 | 新田桜田 | ｼﾝﾃﾞﾝｻｸﾗﾀﾞ | 市史中巻 | |
| 5 | 川樋 | 栂子頭山 | 不明 | 金山村川樋村入会図 | 川樋と金山の境の峯。砂利山の西 |
| 6 | 川樋 | 大黒山 | ｵｵｸﾞﾛﾔﾏ | 金山村川樋村入会図 | 川樋と金山の境の峯。虚空蔵山館の南西 |
| 7 | 川樋 | 肘曲り峠 | ﾋｼﾞﾏｶﾞﾘﾄｳｹﾞ | 大正三年山形県羽前国五万分の一地形図仙台十六号 | 川樋と金山の境の峠（鬼面石の南東） |
| 8 | 新田 | 十年坂 | ｼﾞｭﾈﾝｻﾞｶ | 中川郷土史ふるさと中川 | 「小岩沢より大洞山の山裾を廻り白幡八幡・ビッキ石・十分の一山・北方の新田堤・昔十年坂と言われた坂を登り、新田の最も古い道島上坂に出た」とある。現在の国道 13 号島上坂を登り切った付近か。地域の口頭伝承にも地名が出ている。 |
| 9 | 新田 | 桜壇 | ｻｸﾗﾀﾞﾝ | 山形県歴史の道調査報告書　米沢・板谷街道 | 一里塚があった。 |
| 10 | 新田 | 平 | ﾀｲﾗ | 中川風土記（1963） | 金鉱繁昌の頃に萱場千軒という。 |
| 11 | 小岩沢 | 内屋敷 | ｳﾁﾔｼｷ | 聞き取り | 小岩沢字水上。小岩沢公民館付近。通称地名 |
| 12 | 小岩沢 | 小岩沢山七つ倉（一の倉、三の倉、狐倉、井戸倉、柴倉、日向倉、女児倉） | ｲﾁﾉｸﾗ、ｻﾝﾉｸﾗ、ｷﾂﾈｸﾞﾗ、ｲﾄﾞｸﾞﾗ、ｼﾊﾞｸﾞﾗ、ﾋｶﾀｸﾞﾗ、ﾒｺﾞｸﾗ | 中川風土記（1963） | 中地区の最高峰黒森山の谷に位置する。 |
| 13 | 元中山 | こが川 | ｺｶﾞｶﾞﾜ | 市建設課 | 日影から諏訪原、代へと流れる日影川の別名 |
| 14 | 元中山 | 田中 | ﾀﾅｶ | 水心子正秀とその一門 | 刀工 水心子正秀の生家があった |
| 15 | 元中山 | 向屋敷 | ﾑｶｲﾔｼｷ | 水心子正秀とその一門 | 田中の道向い。水心子正秀の本家筋の鈴木家があった所。 |
| 15 | 元中山 | 鷹取山 | ﾀｶﾄﾘﾔﾏ | 金山村川樋村入会図 | 鷹戸山の別名 |

## 2．中山（上山市分）の小字名・地名（※出典 ad,af は釜渡戸を分けていない。備考に記載）

| NO | 地区名 | 字名（地名） | 読み | 出典 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 中山 | 熊ノ入山 | ｸﾏﾉｲﾘﾔﾏ | ad,af | |
| 2 | 中山 | ヌカリ澤 | ﾇｶﾘｻﾜ | ad,af | |
| 3 | 中山 | 天守山 | ﾃﾝｼｭﾔﾏ | ad,af | 中山城関連 |
| 4 | 中山 | 天守山平 | ﾃﾝｼｭﾔﾏﾀｲﾗ | ad,af | 〃 |
| 5 | 中山 | 太刀打山 | ﾀﾁｳﾁﾔﾏ | ad,af | 館内か |
| 6 | 中山 | 西海抜平 | ｻｲｶｶﾞﾀｲﾗ | ad,af | 植物のｻｲｶﾁか |
| 7 | 中山 | 物見山 | ﾓﾉﾐﾔﾏ | ad,af | 城館地名、物見山館 |
| 8 | 中山 | 夫女石 | ﾒｵﾄｲｼ | ad,af | |
| 9 | 中山 | 中峰 | ﾅｶﾐﾈ | ad,af | |
| 10 | 中山 | 長峰 | ﾅｶﾞﾐﾈ | ad,af | |
| 11 | 中山 | 栗栖山 | ｸﾘｶﾗﾔﾏ | ad,af | |
| 12 | 中山 | 笹平山 | ｻｻﾀｲﾗﾔﾏ | ad,af | ※釜渡戸 NO43 |
| 13 | 中山 | 南返山 | ﾐﾅﾐｶﾍﾞﾔﾏ | ad,af | ※釜渡戸 NO45 |
| 14 | 中山 | モワタ入山 | ﾓﾜﾀｲﾘﾔﾏ | ad,af | ※釜渡戸 NO23 |
| 15 | 中山 | 笹平 | ｻｻﾀｲﾗ | ad,af | ※釜渡戸 NO35 |
| 16 | 中山 | 女澤山 | ｵﾝﾅｻﾜﾔﾏ | ad,af | ※釜渡戸 NO37 |
| 17 | 中山 | 小田切山 | ｵﾀﾞｷﾞﾘﾔﾏ | ad,af | ※釜渡戸 NO34 |
| 18 | 中山 | 祖父ケ澤山 | ﾁﾞﾁﾞｶﾞｻﾜﾔﾏ (af: ﾁﾁﾌﾞﾜｻﾔﾏ) | ad,af | ※釜渡戸 NO19 |
| 19 | 中山 | 松ケ澤 | ﾏﾂｶﾞｻﾜ | ad,af | ※釜渡戸 NO20 |
| 20 | 中山 | 上ノ山 | ｳｴﾉﾔﾏ | ad,af | |
| 21 | 中山 | 種漬場山 | ﾀﾈﾂﾂﾊﾞﾔﾏ | ad,af | |
| 22 | 中山 | 白崩 | ｼﾗﾗｸﾞﾚ | ad,af | 崩壊地名 |
| 23 | 中山 | 矢ノ澤 | ﾔﾉｻﾜ | ad,af | |
| 24 | 中山 | 虚澤山 | ﾄｺﾛｻﾞﾜﾔﾏ | ad,af | |
| 25 | 中山 | 本澤 | ﾎﾝｻﾞﾜ | ad,af | |
| 26 | 中山 | 袖ケ窪 | ｿﾃﾞｶﾞｸﾎﾞ | ad,af | |
| 27 | 中山 | 袖ケ首山 | ｿﾃﾞｶﾞｸﾎﾞﾔﾏ | ad,af | |
| 28 | 中山 | 片倉山 | ｶﾀｸﾗﾔﾏ | ad,af | |
| 29 | 中山 | 與平澤 | ﾖﾀﾞｲﾗｻﾞﾜ | ad,af | |
| 30 | 中山 | 萩ノ倉 | ﾊｷﾞﾉｸﾗ | ad,af | |
| 31 | 中山 | 深澤 | ｼﾝｻﾞﾜ | ad,af | |
| 32 | 中山 | 清水平 | ｽﾐｻﾞﾀｲﾗ | ad,af | |
| 33 | 中山 | 清水平山 | ｽﾐｻﾞﾀｲﾗﾔﾏ | ad,af | |
| 34 | 中山 | 牛ケ首山 | ｳｼｶﾞｸﾋﾞﾔﾏ | ad,af | |
| 35 | 中山 | 鍋石 | ﾅﾍﾞｲｼ | ad,af | |
| 36 | 中山 | 南澤 | ﾐﾅﾐｻﾞﾜ | ad,af | |
| 37 | 中山 | 金盈 | ｶﾈｺﾎﾞｼ | ad,af | 鉱山関連地名 |
| 38 | 中山 | 金盈山 | ｶﾈｺﾎﾞｼﾔﾏ | ad,af | 鉱山関連地名 |
| 39 | 中山 | 駒子澤 | ｺﾏｺｻﾞﾜ | ad,af | |
| 40 | 中山 | 入影丸 | ｲﾘｶｹﾞﾏﾙ | ad,af | |
| 41 | 中山 | 中ノ森 | ﾅｶﾉﾓﾘ | ad,af | ※釜渡戸 NO48 |
| 42 | 中山 | 和江山 | ﾜｴﾔﾏ | ad,af | |
| 43 | 中山 | 小飽原山 | ｺｱｸﾊﾞﾗﾔﾏ | ad,af | |
| 44 | 中山 | 岩澤 | ｲﾜｻﾜ | ad,af | |
| 45 | 中山 | 傳助田 | ﾃﾞﾝｽｹﾀ | ad,af | |
| 46 | 中山 | 松峰 | ﾏﾂﾐﾈ | ad,af | |
| 47 | 中山 | 大瀧 | ｵｵﾀｷｻﾜ | ad,af | |
| 48 | 中山 | 坂ノ上 | ｻｶﾉｳｴ | ad,af | |
| 49 | 中山 | 北入 | ｷﾀｲﾘ | ad,af | |
| 50 | 中山 | 平田山 | ﾍｲﾀﾞﾔﾏ | ad,af | |
| 51 | 中山 | 森合山 | ﾓﾘｱｲﾔﾏ | ad,af | |
| 52 | 中山 | 金神林 | ｺｳｼﾞﾝﾊﾔｼ | ad,af | 金神は方位神、金屋子神は鍛冶・製鉄に関連する神。（元中山と重複か） |
| 53 | 中山 | 金神林山 | ｺｳｼﾞﾝﾊﾔｼﾔﾏ | ad,af | |
| 54 | 中山 | 鉛山 | ﾅﾏﾘﾔﾏ | ad,af | 鉱山関連地名 |

| NO | 地区名 | 字名（地名） | 読み | 出典 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 55 | 中山 | 坊澤 | ﾎﾞｳｻﾜ | ad,af | |
| 56 | 中山 | 坊澤山 | ﾎﾞｳｻﾜﾔﾏ | ad,af | |
| 57 | 中山 | 釜澤 | ｶﾏｻﾞﾜ | ad,af | 窯か |
| 58 | 中山 | 黒森 | ｸﾛﾓﾘ | ad,af | 境目の霊地 |
| 59 | 中山 | 外山 | ｿﾄﾔﾏ | ad,af | ※釜渡戸NO42 |
| 60 | 中山 | 首塚 | ｸﾋﾞﾂﾞｶ | ad,af | |
| 61 | 中山 | 釜澤東 | ｶﾏｻﾞﾜﾋｶﾞｼ | ad,af | 窯か |
| 62 | 中山 | 駒子澤山 | ｺﾏｺｻﾞﾜﾔﾏ | ad,af | |
| 63 | 中山 | 鳶ノ巣 | ﾄﾐｱﾉｽ | ad,af | |
| 64 | 中山 | 林中山 | ﾊﾔｼﾅｶﾔﾏ | ad,af | ※釜渡戸NO8 |
| 65 | 中山 | 裏山 | ｳﾗﾔﾏ | ad,af | ※釜渡戸NO9 |
| 66 | 中山 | 落合澤 | ﾎﾂﾔｲｻﾜ | ad,af | ※釜渡戸NO47 |
| 67 | 中山 | 丸山 | ﾏﾙﾔﾏ | ad,af | ※釜渡戸NO40 |
| 68 | 中山 | 吹畑山 | ﾌｸﾊﾀﾔﾏ | ad,af | ※釜渡戸NO30<br>窯址や製鉄関連地名か |
| 69 | 中山 | 赤坂山 | ｱｶｻｶﾔﾏ | ad,af | ※釜渡戸NO6 |
| 70 | 中山 | 物見山 | ﾓﾉﾐﾔﾏ | ad | 城館地名 |
| 71 | 中山 | 木ノ子澤山 | ｷﾉｺｻﾜﾔﾏ | ad,af | ※釜渡戸NO25 |
| 72 | 中山 | 南原山 | ﾐﾅﾐﾊﾗﾔﾏ | ad,af | ※釜渡戸NO41 |
| 73 | 中山 | 芳ケ澤山 | ﾖｼｶﾞｻﾜﾔﾏ | ad,af | ※釜渡戸NO27 |
| 74 | 中山 | 東太刀山 | ﾋｶﾞｼﾀﾁﾔﾏ | ad,af | ﾀﾁ：館か |
| 75 | 中山 | 南太刀山 | ﾐﾅﾐﾀﾁﾔﾏ | ad,af | ※釜渡戸の立山か |
| 76 | 中山 | 西太刀山 | ﾐﾅﾐﾀﾁﾔﾏ | af | 釜渡戸NO2,3,4 |
| 77 | 中山 | 早坂山 | ﾊﾔｻｶﾔﾏ | ad,af | ※釜渡戸NO12 |
| 78 | 中山 | 西立山 | ﾆｼﾀﾃﾔﾏ | ad,af | ※釜渡戸NO2 |
| 79 | 中山 | 南袖山 | ﾐﾅﾐｿﾃﾞﾔﾏ | ad,af | ※釜渡戸NO16 |
| 80 | 中山 | 狐澤山 | ｷﾂﾈｻﾜﾔﾏ | ad,af | ※釜渡戸NO44 |
| 81 | 中山 | 北山 | ｷﾀﾔﾏ | ad,af | ※釜渡戸NO46 |
| 82 | 中山 | 熊ノ堂 | ｸﾏﾉﾄﾞｳ | ad,af | |
| 83 | 中山 | 高岡山 | ﾀｶｵｶﾔﾏ | ad,af | |
| 84 | 中山 | 揚橋 | ｱｶﾞﾊｼ | ad,af | 城館関連地名か |
| 85 | 中山 | 千苅田（af: 千切田） | ｾﾝｶﾞﾘﾀ | ad,af | |
| 86 | 中山 | 壁屋敷 | ｶﾍﾞﾔｽｷ | ad,af | 城館関連地名 |
| 87 | 中山 | 上舘原 | ｼﾞｮｳｶﾞﾝﾊﾗ (af: ｼﾞｮｳｶﾝﾊﾞﾗ) | ad,af | 城館地名 |
| 88 | 中山 | 瀧ノ澤 | ﾀｷﾉｻﾜ | ad,af | |
| 89 | 中山 | 北原 | ｷﾀﾊﾗ | ad,af | |
| 90 | 中山 | 西原 | ﾆｼﾊﾗ | ad,af | |
| 91 | 中山 | 新町 | ｼﾝﾏﾁ | ad,af | |
| 92 | 中山 | 明神町 | ﾐｮｳｼﾞﾝﾁｮｳ | ad,af | |
| 93 | 中山 | 新田 | ｼﾝﾃﾞﾝ | ad,af | |
| 94 | 中山 | 廣河原 | ﾋﾛｶﾞﾜﾗ | ad,af | |
| 95 | 中山 | 八幡前 | ﾊﾁﾏﾝﾏｴ | ad,af | |
| 96 | 中山 | 蛇ノ崎 | ｼﾞｬﾉｻｷ | ad,af | 蛇：水害地名 |
| 97 | 中山 | 上町 | ｳﾜﾏﾁ | ad,af | |
| 98 | 中山 | 楡澤 | ﾆﾚｻﾜ | ad,af | |
| 99 | 中山 | 上廓（af：上郭） | ｳﾜｸﾞﾙﾜ | ad,af | |
| 100 | 中山 | 貝吹森 | ｶｲﾌｸﾓﾘ | ad,af | |
| 101 | 中山 | 代 | ﾀﾞｲ | ad,af | |
| 102 | 中山 | 熊ノ前 | ｸﾏﾉﾏｴ | ad,af | |
| 103 | 中山 | 牛ケ首 | ｳｼｶﾞｸﾋﾞ | ad,af | 首状の隘路 |
| 104 | 中山 | 和江 | ﾜｴ | ad,af | |
| 105 | 中山 | 飽原 | ｱｸﾊﾗ | ad,af | 窯跡関連地名か |
| 106 | 中山 | 北堤 | ｷﾀﾄﾞﾃ | ad,af | |
| 107 | 中山 | 南堤 | ﾐﾅﾐﾄﾞﾃ | ad,af | |
| 108 | 中山 | 入水 | ｲﾘﾐｽﾞ | ad,af | |
| 109 | 中山 | 鞆町 | ﾌﾀﾏﾁ | ad,af | |

| NO | 地区名 | 字名（地名） | 読み | 出典 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 110 | 中山 | 境 | ｻｶｲ | ad,af | |
| 111 | 中山 | 大谷地 | ｵｵﾔﾁ | ad,af | 低湿地 |
| 112 | 中山 | 小田 | ｺﾀﾞ | ad,af | |
| 113 | 中山 | 平田 | ﾍｲﾀ | ad,af | |
| 114 | 中山 | 早坂 | ﾊﾔｻｶ | ad,af | ※釜渡戸NO11 |
| 115 | 中山 | 芳ケ澤 | ﾖｼｶﾞｻﾜ | ad,af | ※釜渡戸NO26 |
| 116 | 中山 | 後合（af：役合） | ｱﾄｱﾜｾ | ad,af | ※釜渡戸NO28 |
| 117 | 中山 | 福原 | ﾌｸﾊﾗ | ad,af | ※釜渡戸の吹原か<br>釜渡戸NO29 |
| 118 | 中山 | 中島 | ﾅｶｼﾞﾏ | ad,af | ※釜渡戸NO31 |
| 119 | 中山 | 丸坂 | ﾏﾙｻｶ | ad,af | ※釜渡戸NO32 |
| 120 | 中山 | 小田切 | ｵﾀﾞｷﾞﾘ | ad,af | ※釜渡戸NO33 |
| 121 | 中山 | 林中 | ﾊﾔｼﾅｶ | ad,af | ※釜渡戸NO7 |
| 122 | 中山 | 女澤 | ｵﾝﾅｻﾜ | ad,af | ※釜渡戸NO36 |
| 123 | 中山 | ホタシメ（af：キタシメ） | ﾎﾀｼﾒ | ad,af | ※釜渡戸NO38<br>ほだしめ坑 |
| 124 | 中山 | 南原 | ﾐﾅﾐﾊﾗ | ad,af | ※釜渡戸NO10 |
| 125 | 中山 | 大下 | ｵｵｼﾀ | ad,af | ※釜渡戸NO13 |

引用・参考文献


1．安齋徹・西村眞次 1938『東置賜郡史』財団法人東置賜郡教育會
2．山形県 1938『山形県地名録』
3．赤湯町 1958『赤湯小学校社会科資料』赤湯町
4．斎藤吉治 1960『山形縣町村史』山形県町村会
5．安部惣七・保科文男編 1963『中川風土記』安部惣七
6．山形県 1965『山形県史資料編九』山形県
7．長井政太郎 1968『赤湯町史』赤湯町史編さん委員会発行
8．沖郷村 1973『沖郷村史』沖郷村史編纂委員会
9．東置賜郡教育会 1973『東置賜郡史下巻』中村安孝
10．黒江太郎 1976『宮内熊野大社史』熊野文化研究所発行
11．山形県 1977『山形県史資料篇十五　上古代中世史料１』山形県
12．山形県 1978『山形県史資料篇十九　近現代史料１』山形県
13．小関清 1979『梨郷村史』梨郷村史編纂会
14．黒江二郎 1979『水心子正秀とその一門』黒江二郎
15．米沢市史編さん委員会 1980『米沢市史編集資料第二号』米沢市史編さん委員会
16．「角川日本地名大辞典」編纂委員会 1981『角川日本地名大辞典』㈱角川書店
17．山形県教育委員会 1981『山形県歴史の道調査報告書　米沢・板谷街道』山形県教育員会
18．近野竹蔵 1982『北条郷鉱山史話』宮内文化史研究会
19．南陽市教育委員会 1983『市史編集資料第 10 号』南陽市教育委員会
20．中山恕子・宮城豊彦 1984「閉鎖系堆積物からみた最終氷期中葉以降の環境変化と斜面発達過程」『東北地理』第 36 巻第１号　東北地理学会
21．山形県 1985『山形県史第二巻　近世編上』山形県
22．米沢市史編さん委員会 1985『米沢市史資料篇１』伊達家関係資料「北条段銭帳」「晴宗公采地下賜録」外 『米沢市史資料篇１』
23．置賜民俗学会 1985『置賜の庶民生活（二）－民間信仰－』置賜民俗学会
24．高畠町史編集委員会 1986『高畠町史下巻』高畠町
25．米沢市史編さん委員会 1987『米沢市史編集資料第二十号』米沢市史編さん委員会
26．南陽市史編さん委員会 1987『南陽市史考古資料編』南陽市発行
27．南陽市史編さん委員会 1988『南陽市史民俗編』南陽市発行
28．南陽市史編さん委員会 1990『南陽市史上巻』南陽市発行
29．南陽市史編さん委員会 1991『南陽市史中巻』南陽市発行
30．南陽市史編さん委員会 1992『南陽市史下巻』南陽市発行
31．角田朋行 1993『平成５年度南陽市字限図調査報告書（平野部）』南陽市教育員会
32．仙台市 1994『仙台市史　特別編１（自然）』仙台市史編さん委員会
33．滝沢由美子 1995「地籍図による地域環境と景観の復元」『歴史地理学 172』歴史地理学会
34．南陽市教育委員会 1996『市史編集資料第 26 号』南陽市教育委員会
35．守田益宗・藤本利之「東北地方南部における過去 50,000 年の植生変遷史」『日本花粉学会会誌 43』日本花粉学会
36．山形新聞社 2003『やまがた地名伝説第１巻』(山形新聞社)
37．さあべい同人会 2003『さあべい第 20 号』さあべい同人会
38．槙綾・佐藤祐介・阪英子 2009『中山城跡　第１・２次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター
39．氏家信行・伊藤純子 2009『加藤屋敷遺跡第１・２次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター
40．南陽市教育委員会 2010『市史編集資料第 39 号』南陽市教育委員会
41．角田朋行 2016『南陽市遺跡分布調査報告書（３）』(南陽市埋蔵文化財調査報告書第 11 集）南陽市教育委員会
42．角田朋行 2016『南陽市遺跡分布調査報告書（４）』(南陽市埋蔵文化財調査報告書第 13 集）南陽市教育委員会
43．角田朋行 2017『南陽市遺跡分布調査報告書（５）』(南陽市埋蔵文化財調査報告書第 15 集）南陽市教育委員会
44．保角里志 2019『最上義光の城郭と合戦』戎光祥出版株式会社
45．佐藤錦雄他 2019『中川郷土史　ふるさと中川』中川の沿革誌を残す会
46．角田朋行 2022『南陽市遺跡分布調査報告書（10）』(南陽市埋蔵文化財調査報告書第 23 集）南陽市教育委員会
47．保角里志 2022『戦国山形の合戦と城』㈱無明舎出版
48．角田朋行 2023『南陽市遺跡分布調査報告書（11）』(南陽市埋蔵文化財調査報告書第 24 集）南陽市教育委員会

# 報告書抄録

| | |
|---|---|
| ふりがな | なんようしあざきりずちょうさほうこくしょ（4）ーなかかわー |
| 書名 | 南陽市字限図調査報告書（4）―　中川　― |
| 副書名 | |
| 巻次 | |
| シリーズ名 | 南陽市文化財調査報告書 |
| シリーズ番号 | 第4集 |
| 編著者名 | 角田朋行 |
| 編集機関 | 南陽市教育委員会 |
| 所在地 | 〒999-2292　山形県南陽市三間通436番地1　ＴＥＬ　0238-40-3211 |
| 発行年月日 | 2024年3月31日 |
| 要約 | 市内遺跡分布調査の基礎資料として市内平野部の字限図調査を実施したもの。明治期の字限図から字寄図を作成し、それを基本図として土地利用図等を作成した。土地利用図と地名等から地形状況の把握や城館跡等の検討を行った。また、小字名・地名等を採録した。本報告書では市内8地区のうち中川地区分について報告している。 |

南陽市文化財調査報告書
南陽市字限図調査（４）
―　中川　―
2024年３月３１日

発行　南陽市教育委員会
〒999-2292　山形県南陽市三間通436番地の１
電話　0238-40-3211（代）
印刷　有限会社文進堂印刷
〒999-2221　山形県南陽市椚塚811－３
電話　0238-43-2116